



東京文化資源会議 2020 年度総会資料

2020 年 7 月 24 日 (金) 12 時～13 時

東京文化資源
会議

Tokyo Cultural Heritage Alliance

▶ 議事次第

- (1) 会長挨拶
- (2) 2019 年度活動報告
- (3) 2019 年度収支報告及び監査報告
- (4) 2020 年度事業計画及び予算案
- (5) 規約改正案
- (6) 質疑応答・意見交換

▶ 目次

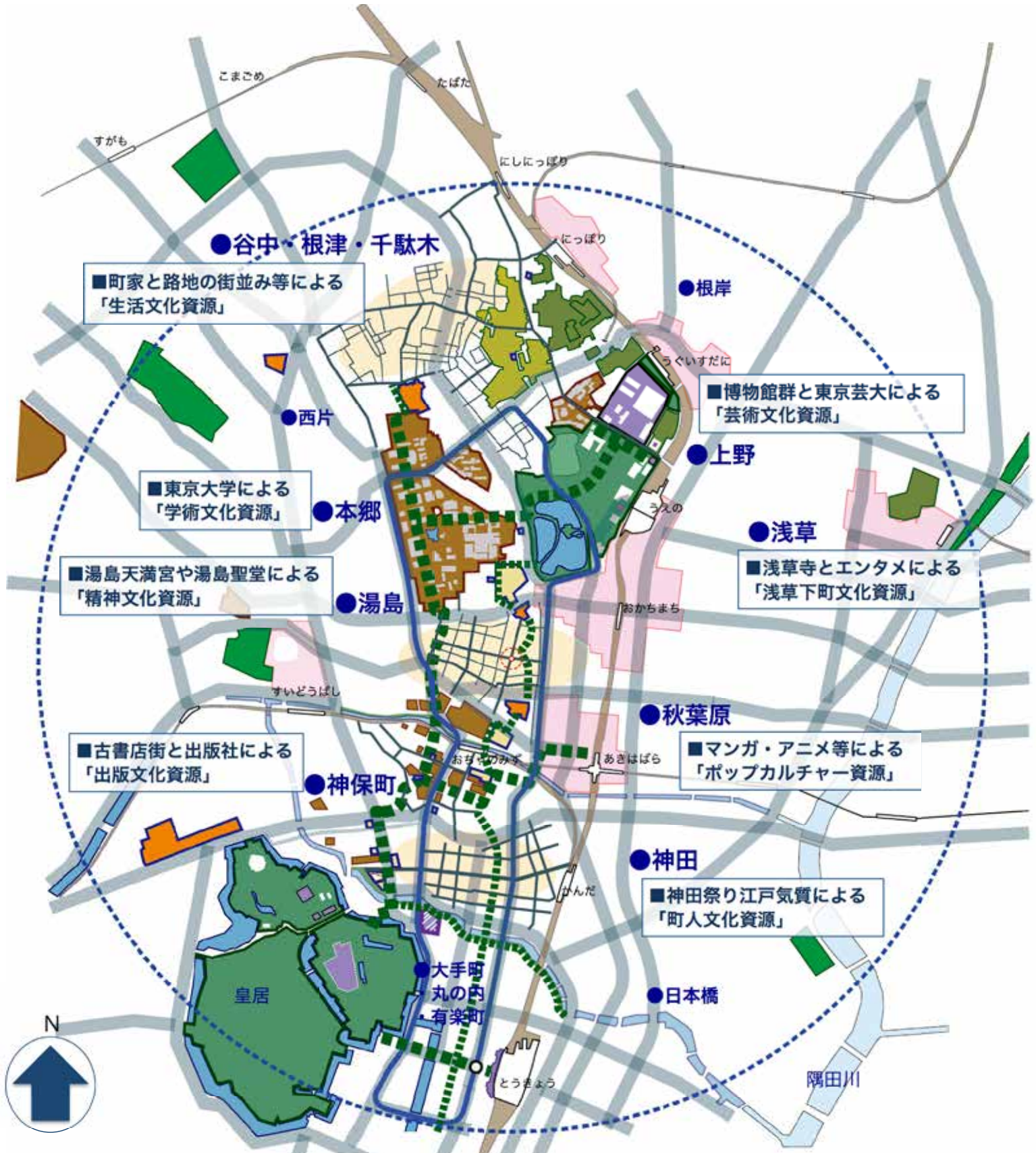
①東京文化資源区構想（半径3キロ圏地図 第4版）.....	4
②活動マップ（第6版）.....	5
③活動実績（2014年～2020年6月）.....	6
④2019年度プロジェクトチーム活動報告.....	9
④-1. 地図ファブ.....	9
④-2. 地域文化資源デジタルアーカイブ.....	10
④-3. 湯島神田上野社寺会堂研究会.....	12
④-4. 本郷のキオクの未来.....	14
④-5. スポーツ文化資源.....	16
④-6. 上野スクエア構想.....	17
④-7. リノベーションまちづくり制度研究会.....	21
④-8. ナショナルハウス構想.....	26
④-9. TokyoTramTown 構想.....	27
④-10. 広域秋葉原作戦会議.....	28
④-11. 上野ナイトパーク構想会議.....	30
④-12. やねせんあたり研究所.....	32
④-13. 神田まちづくり懇談会.....	34
④参考 ソラシティでスポーツを遊ぼう.....	35
⑤活動中のプロジェクトチーム等 一覧.....	36
⑥2019年度 収支報告.....	37
⑦2019年度 会計監査報告.....	39
⑧2020年度事業計画案.....	40
⑨2020年度収支計画案.....	42
⑩東京文化資源区文化プログラム推進協議会規約....	43
⑪全国文化資源連携ビジョン策定委員名簿.....	44
⑫東京文化資源会議 役員名簿.....	45
⑬東京文化資源会議 賛助会員一覧.....	46
⑭規約改正案.....	47



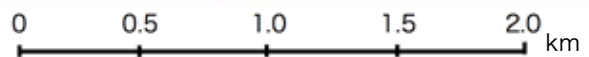


会資文東
議源化京
Tokyo Cultural Heritage Alliance

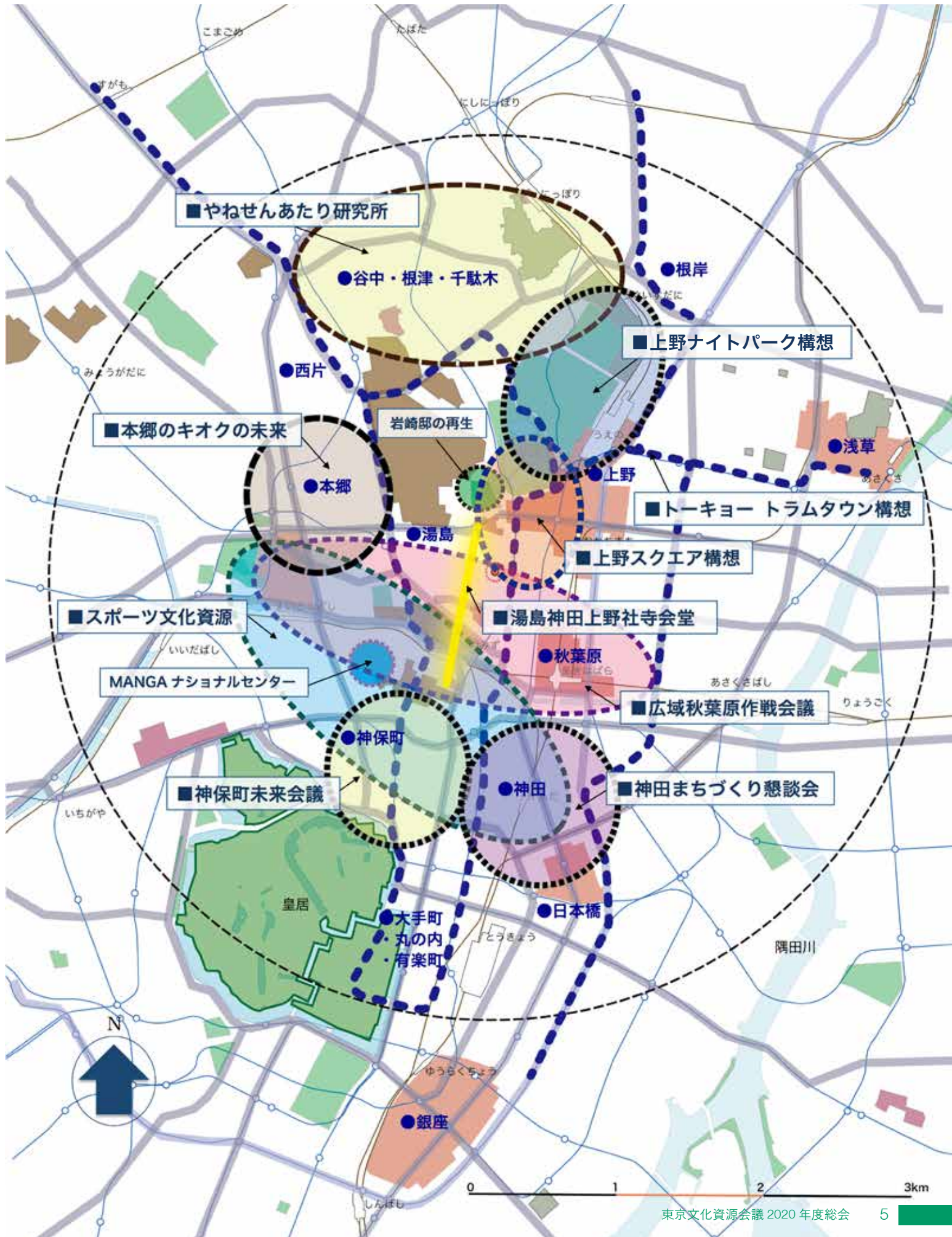




凡例



大学等教育施設	墓地・墓苑	会館・宗教施設	居住等新整備エリア	バス等回遊動線	半径 3.0km 圏
公園・皇居等緑地	谷中等社集積地	博物館・美術館等	幹線道路	低速の回遊動線	半径 3.0km の中心
上野動物園	神社	市街地整備地区等	地区内道路		



東京文化資源会議 活動実績

2020年5月21日現在

2014年

- 第1回東京文化資源区構想策定調査委員会（6月6日）
- 公開ラウンドテーブル no.1「東京文化資源区構想」（10月22日）

2015年

- 東京文化資源会議設立総会（2月23日）、会議発足（4月1日）
- 『東京文化資源区構想報告書』発行（5月）
- 公開シンポジウム no.1「Tokyo 2020/2030：文化資源で東京が変わる」（5月21日）
- 第1回役員会・賛助会員懇親会（6月18日）
- 2015年度第1回総会（6月29日）
- 都市計画家協会ワークショップ「東京文化資源からのコミュニティ・デザイン」（8月20・21日）：協力イベント
- 団体会員向けプログラム説明・意見交換会（9月28日）
- 全国まちづくり会議学生セッション（東京文化資源区）（10月4日）：関連企画
- 会員向けエクスカージョン「CTNを周ってみる」（10月17日・24日）
- 谷中まちづくり公開セミナー no.1（11月9日）～no.5（2016年2月14日）
- 第1回東京ビエンナーレ企画委員会（11月25日）
- 第1回文化資源連携ビジョン策定委員会（12月3日）
- 「オズマガジン Meets 2015」：協力企画（中村政人氏対談）（12月13日）

2016年

- 「三区文化資源地図協議会」発足（1月1日）
- 文化資源地図ファブPT第1回会合（1月21日）
- 公開シンポジウム no.2「2030東京ビジョン：3区長、大いに語る」（2月4日）：朝日新聞社共催
- 国際連携チーム（ILT）発足（3月9日）
- まちの作戦会議@谷中P成果発表会（3月13日）
- 公開ラウンドテーブル no.2「オリンピック文化プログラム構想戦略ラウンドテーブル」（3月24日）
- 『オリンピック文化プログラム』『東京文化資源区の歩き方』同時発行（3月25日）
- フォーラム no.1「プロジェクトスクール（まちづくり系）フォーラム」（4月22日）
- 地域文化資源デジタルアーカイブ（谷根千編）プロジェクトチーム発足（5月25日）
- 東京文化資源区文化プログラム推進協議会発足（6月1日）
- 湯島神田社寺会堂プロジェクト第1回検討会（6月8日）
- 『第2回公開シンポジウム報告書』発行（6月14日）
- 2016年度第1回総会（6月23日）
- 第1回神田まちづくり懇談会（6月27日）
- 第1回文化プログラム推進協議会（7月6日）
- フォーラム no.2「上野スクエア計画第1回フォーラム」（8月23日）
- トーキョートラムタウン構想第1回勉強会（10月6日）
- 地域文化資源デジタルアーカイブ（谷根千編）試作版公開（10月7日）
- 関連企画：トークセッション「UP TOKYO エリアの社寺会堂」（10月19日）
- フォーラム no.3「上野スクエア計画第2回フォーラム」（10月21日）
- 公開シンポジウム no.3「上野スクエア構想：上野・湯島の魅力を世界に！」（12月5日）
- スポーツ文化資源プロジェクト企画拡大会議（12月12日）

2017年

- 『湯島・神田・秋葉原めぐり』3か国版で発行（4月1日）
- 公開シンポジウム no.4「UP TOKYO の魅力：世界へ、世界から」（4月11日）
- 神田祭ラオ披露目会4/22、神田祭ライブ5/13（3区文化資源地図ファブPT）
- ナショナルハウス構想プロジェクトチーム発足（5月30日）
- 第1回上野スクエア構想検討委員会開催（5月31日）
- 第1回広報委員会（5月31日）
- 2017年度第1回総会（6月30日）

- 「上野ナイトパーク構想」官房長官宛て提案（7月4日）
- 特別賛助会員懇親会（7月7日）
- 第1回リノベまちづくり制度研究会開催（8月2日）
- 公開ラウンドテーブル no.3「トーキョートラムタウン（TTT）構想」（9月7日）
- フォーラム no.4「日本の新しい精神文化創造に向けて一湯島神田社寺会堂検討会」（10月17日）
- 公開シンポジウム no.5「東京・水の記憶と湯島社寺会堂プロジェクト」（11月14日）
- 公開シンポジウム no.6「地域の記憶と記録を今に活かすー地域文化資源デジタルアーカイブの役割ー」（11月24日）

2018年

- 朝日信用金庫・民間都市開発機構による「谷根千街づくりファンド」創設（3月26日）
- 帝都物語第1回トークセッション（地図ファブPT）（6月11日）
- 2018年度第1回総会（7月2日）
- 第1回社寺会堂塾開催（7月4日）
- 2018年度第1回全国文化資源連携ビジョン策定委員会開催（7月10日）
- 公開シンポジウム no.7「グレーターアキバ：情報・知識の交差点」（9月6日）
- 関連企画：東京ピエンナーレ構想展トーク企画「東京文化資源区の観点から『東京ピエンナーレ』を考える」（9月29日）
- 公開シンポジウム no.8「発見！『上野スクエア構想』開かれた文化資源」（10月1日）
- 第1回上野ナイトパーク構想会議開催（10月3日）
- 帝都物語第2回トークセッション（地図ファブPT）（10月18日）
- フォーラム no.5「開かれた文化資源区『上野スクエア』を実践する」（10月31日）
- 東京文化資源会議交流会@旧山口萬吉邸（11月7日）
- 公開シンポジウム no.9「神田明神ホール完成披露 地図からみる帝都物語と江戸・東京@神田明神
ー重層化する都市の文化資源を愉ませるー」（12月14日）
- 広域秋葉原作戦会議アイディアソン vol.1「ライブエンターテイメント特区を考える」（12月15日）

2019年

- フォーラム no.6「まちづくりプロジェクトスクールの可能性 ー『文化資源を担う人』を育てるまちなかのしくみー」
(1月19日)
- 公開ラウンドテーブル no.4「トーキョートラムタウン構想 ースローモビリティが変える東京の都市生活ー」（2月18日）
- 広域秋葉原作戦会議アイディアソン vol.2「アキバ拡張作戦」（2月26日）
- 第1回上野ナイトパーク構想企画検討会開催（3月7日）
- 公開シンポジウム no.10「上野ナイトパークが日本を変える」（4月3日）
- 第1回「池の端仲町かいわい 空きスペース活用ミーティング」（4月19日）
- 広報イベント「ソラシティでスポーツを遊ぼう！」開催（5月5日）
- 第1回総合戦略チーム会議（5月9日）
- 新事務所開き（6月12日）
- トークショー「駿河台・湯島台・本郷台 パブリックスペースを考える」（社寺会堂研究会）（6月21日）
- 広域秋葉原作戦会議アイディアソン vol.3「千代田区都市計画マスタープランをハックする」（6月28日）
- 2019年度第1回総会・上野関連プロジェクト報告会（7月11日）
- アーツ&スナック運動（9月20日、21日）
- 公開シンポジウム no.11「時層する東京と社寺会堂」（11月6日）
- 第1回東京トラムタウン構想委員会開催（12月2日）
- 広域秋葉原作戦会議アイディアソン vol.4「スローモビリティで楽しいアキバ」（TTT 構想 PT との共催）（12月7日）

2020年

- デジタルアーカイブ・ワークショップ（日比谷図書文化館）（2月1日）
- やねせんあたり研究所第1回研究・活動発表会（2月24日）
- 緊急特番「# Save your AKIBA」（5月20日）

<出版物>

書籍

- 『オリンピック文化プログラム』 勉誠出版、2016年
- 『東京文化資源区の歩き方』 勉誠出版、2016年
- 同人誌『広域秋葉原作戦』 2019年

報告書

- 『東京文化資源区構想』 2015年
- 『2030東京ビジョン 3区長、大いに語る』 2016年
- 『湯島社寺会堂プロジェクト報告書』 2017年
- 『上野スクエア第二次構想報告書』 2018年
- 『上野ナイトパーク構想報告』 2019年
- 『リノベーションまちづくり制度研究会 2018年度報告書：東京歴史文化地区の創出にむけて』 2019年

パンフレット

- 「東京文化資源会議：2030Tokyo を変える！」 2016年～（随時改訂）
- 「上野スクエア構想シンポジウム」 2016年
- 「湯島・神田・秋葉原めぐり（日英中3か国版）」 2017年
- 「シンポジウム：地域の記憶と記録を今に活かす」 2017年
- 「江戸・東京 知の交差路 グレーターアキバ（日英中3か国版）」 2018年
- 「江戸・東京 水を愉しむ文化都市（日英中3か国版）」 2018年
- 「近代スポーツ発祥の地をたどる（日英中3か国版）」 2018年
- 「つくる・売る・遊ぶ・街 上野ダウントウン（日英中3か国版）」 2018年
- 「上野アップタウン 観る・学ぶ・想う・街 お寺からアートへ」 2018年
- 『アーツ&スナック運動』 第1号、2020年

定期刊行物

- 『TCha：東京文化資源会議ニューズレター』（季刊、2017年9月～）



東京文化資源会議の中で地図を対象として活動するプロジェクトが「地図ファブ」である。地図ファブはまちづくりや建築分野の研究者、地域の活動家、メディア関係者、ICT関係者など様々な参加者によって構成されている。地図ファブの活動は、地域の公的な活動を支援することでもあり、また公的に発行された地図を対象とするものである。東京文化資源会議のみならず、対象3区（千代田区・文京区・台東区）と共同でプロジェクトを進める必要がある。このために、三区文化資源地図協議会が結成された。

2019年度活動

1. まちあるきワークショップ：帝都の竜脈をあるく ～帝都物語地図カタログの楽しみ方を探る実験的まちあるき～

2019年11月4日（月・休）にまちあるきワークショップ「帝都の竜脈をあるく～帝都物語地図カタログの楽しみ方を探る実験的まちあるき～」を開催した。帝都物語の竜脈・地脈をイメージしながら、文化資源区の地形や街並み、都市に積み重なるコンテキストの要所・特異点とその繋がりを探索するまちあるきとワークショップである。ワークショップの成果は、「実験的まちあるき」としてStrolyマップに成果を整理した。

帝都の竜脈をあるく地図 <https://stroly.com/viewer/1573555959/>

※本まちあるきの企画・運営・システムに関しては、(株)Strolyにボランティアにご協力いただいた。

2. 台東区による地図ファブの成果の活用

地図ファブと3区（千代田区、文京区、台東区）で組織される三区文化資源地図協議会では、地域で発行されている様々な地図の活用を考え、(株)Strolyの協力のもと「その場でスマホで地図を楽しむ」方法を展開してきた。台東区では、上野の山文化ゾーンのパフレットを紹介する際にこのStrolyシステムを活用した。パフレットをクリックするとWeb上にパフレットの地図が展開され、スマホから閲覧すると現在地も確認できる。これは協議会からアドバイスを行ったが、具体的な作業は台東区の方が自らおこなったもので、地図ファブの成果が自立的に波及してきたことを示している。

台東区公式Webサイト/パフレットページ：

https://www.city.taito.lg.jp/index/bunka_kanko/torikumi/uenonoyama/panf.html

※現在公開されているのは「UENO NO YAMA ART FESTIVAL 2019」「行事予定 2019」「上野の山へ遊びに行こう」「UENO ART GUIDE（英語・中国語簡体字・中国語繁体字・ハングル表記に対応）」。

台東区作成 2019 上野の山文化ゾーンフェスティバル地図：地図上のポイントをクリックすると、該当する施設の概要説明やWebサイト等が表示される。スマホから閲覧すると地図上に現在位置も確認可能。



2019上野の山文化ゾーンフェスティバル ①

文化ゾーン

UENO NO YAMA ART FESTIVAL 2019

寛永寺・上野公園、谷中の町並みは、「美しい日本の歴史的風土100選」に選ばれています！

東京国立博物館

日本やアジアの美術品や発掘されたものを集めて研究し、展示しています。土器や仏像の絵や書、刀など、教科書でみた作品や、国宝などを見ることができます。

TNM 東京国立博物館 TOKYO NATIONAL MUSEUM

展示 借し物 コレクション

オンラインギャラリーツアー
Online Gallery Tour

おうちで楽しむ博物館

オンラインギャラリーツアー

トーハクの総合文化展を動画で紹介する「オンラインギャラリーツアー」作品への思い溢れる研究員のトーク。ぜひおうちでトーハクをお楽しみください。

はじめに

地域文化資源デジタルアーカイブ・プロジェクトは、地域のコミュニティ資料、自治体関連資料、刊行物などをデジタル形式でアーカイブ化し共有することを目的としている。地域の情報を蓄積するデジタルアーカイブを社会情報基盤として発展させることで、地域の新たな公共性の創造につなげることをねらいとするものである。2018年度は、この目的を

現するため、多様な活動主体が地域の情報をアーカイブ化するために利用できる仕掛けとして、DA-Lab (Digital Archive Laboratory) と呼ぶ拠点を地域に配置する計画を立案した。2019年度は、DA-Lab の構想について実践を通じてその手法と可能性を検証する場として、デジタル・コレクション・イベントを実施した。

デジタル・コレクション・イベント

2020年2月1日に東京都千代田区日比谷図書文化館にて「デジタルアーカイブ・ワークショップ」を実施した。これは、地域の住民に対して、DA-Labに参加しDA-Labを活用するきっかけを作るため「デジタル・コレクション・イベント」として企画したものである。デジタル・コレクション・イベントとは、地域の住民がテーマに沿った歴史的な資料を持ち寄ってデジタル化し、オンラインに公開するイベントである。類似例として、ヨーロッパの文化遺産に関する電子図書館「Europeana」が、地域へのアウトリーチ活動の一環として各地で開催しているデジタル・コレクション・デーがある。これまでの活動事例として、「第一次世界大戦」や「移民」をテーマにしたものがある。

今回、東京文化資源地区でデジタル・コレクション・イベントを開催するにあたり、テーマを「学校」として提案を行った。本イベントでは、資料をデジタル化するだけでなく、所有者に対するインタビューを行い、資料に関する周辺情報も記録する。不明な情報があれば、運営スタッフが資料に関する調査を手助けしたり、オンラインで公開して閲覧者に補足情報を求めたりする。参加者が地域資料の収集、デジタル化、公開、活用までの一連の作業を行うことで、デジタルアーカ

イブ構築のノウハウを身につけ、コミュニティの中で主体的に地域文化資源を発掘、活用できるようにすることを目的とした。

『マニュアルをもとに、本プロジェクトで作成したフロア配置図を図1に示す。図3は「Step #2 インタビューデスク」の様子を示す。資料に関するコンテキストを聞きながら、インタビューシートにその内容を記載している。

図4は「Step #3 デジタル化」の様子である。デジタル化した資料はデジタルアーカイブシステムに随時登録した。当日のワークショップを通じて、24アイテム、71画像をシステムに登録した。

図5は「Step #4 展示・交流スペース」の様子である。デジタルアーカイブシステムをスクリーンに投影し、参加者が資料に関するディスカッションを実施した。

本ワークショップにおけるディスカッションを通じて、資料に対する理解の向上および参加者間の交流が生まれた。この結果から、本ワークショップが地域におけるアーカイブ構築を通じた多様なコミュニケーションの活性化、および新たな公共性の創造に寄与し得ることを確認した。

今後の活動の展望

本年度は、ワークショップの実施を通じて、参加者が資料の収集、デジタル化、公開、活用までの一連の作業を体験することで、コミュニティの中で主体的に地域文化資源を発掘・活用する方法に触れる機会を提供した。この結果、資料に対する理解の向上および参加者間の交流が生まれ、本ワークショップが地域におけるアーカイブ構築を通じた多様なコミュニケーションの活性化に寄与し得ることを確認した。

今後は、これまでのプロジェクトチームでの経験に基づき、地域コミュニティでデジタルアーカイブを構築する際の課題を洗い出したうえで、他の地域で同様のイベントを展開する際の知見をまとめること、また、文化資源会議の他のプロジェクトと連携しながら、その活用可能性とビジネス活用する方法も探る活動を展開することを予定している。

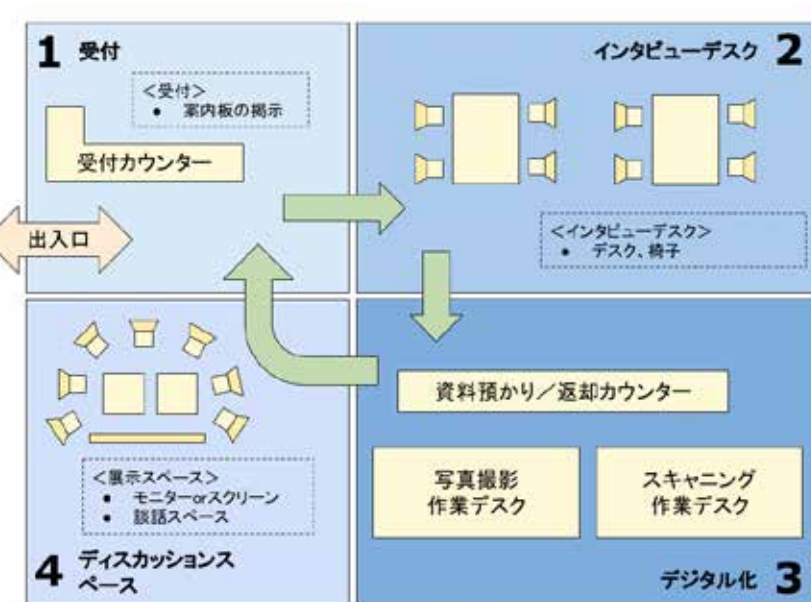


図 1. フロア配置図

図 3. Step #2 インタビューデスクの様子



図 2. 当日の様子 (フロア全体)



図 4. Step #3 デジタル化の様子



図 5. Step #4 展示・交流スペースの様子

活動概要

社寺会堂研究会では、上野、湯島、駿河台の学術・宗教施設が集まり、精神文化の今日的なあり方について、ソフト・ハードの両面から検討しています。構成メンバーは寛永寺、アッサラームファンデーション、湯島天満宮、神田明神、湯島聖堂、ニコライ堂の6施設と、周辺大学関係者等です。3期目となる2019年度は、メンバーによる共同イベント「崖東夜話」（がいとやわ）の開催に向けた準備、「社寺会堂塾」の運営と書籍化を中心に活動しました。

第3期 取組み方針

- ① 学術・宗教施設による共同イベントの開催
- ② 社寺会堂塾の書籍化
- ③ 歴史をつなぎ施設をむすぶ散策マップの作成
- ④ 学術・宗教施設から考える、まちの環境整備の提案



崖東夜話

先述6施設と東京文化資源会議による共同イベントを2020年10月27日（火）夜間に開催します。上野、湯島、駿河台には多くの学術・宗教施設が建ち並び、異なる学問、宗教が共存しています。武蔵野台地東端の崖線に並ぶ6施設の立地関係に着目し、共同イベントを「崖東夜話」と名づけました。統一テーマ「音のひびき・魂のかたち」のもと、6施設を会場にして各分野の専門家が集まり、参加者とともに学術・宗教施設の歴史的、文化的、社会的な意義について考えます。

社寺会堂塾と書籍化

小さな学びの場「社寺会堂塾」を2018年夏に開設し、学問、宗教の枠を超えた普遍的な精神性のあり方についてディスカッションを進めています。各回、メンバー施設をめぐり、担当者による施設の紹介や専門家によるレクチャーを重ねて、思想・宗教の理解を深める機会の創出にも繋がっています。その集約となる書籍（タイトル未定）を秋に刊行することになりました。書籍には、「現代に求められる精神性と自己変容」をテーマにした先端的な議論のほか、6施設へのインタビュー等を収録します。「崖東夜話」の関連企画でもあり、イベント開催時である10月中の刊行を予定しています。



ニコライ堂

神田明神

寛永寺

湯島聖堂

湯島天満宮

アッサラーム
ファンデーション

活動記録（主要なものを抜粋）

開催日	行事	場所	内容
2019年4月10日	社寺会堂塾	寛永寺	「仏教における經典の意味」
2019年9月26日	社寺会堂塾	アッサラームファンデーション	「日本におけるクルアーンの翻訳とその課題」
2019年10月10日	崖東夜話打合せ	東京大学	コーディネータ顔合わせ
2019年11月19日	T-Cha10号取材	湯島天満宮	紙面座談会
2019年12月16日	研究会	湯島天満宮	崖東夜話と社寺会堂塾出版化の検討、懇親会
2020年1月15日	社寺会堂塾	東京大学	施設へのインタビュー
2020年2月12日	社寺会堂塾	東京大学	施設へのインタビュー

**ギャラリートーク 「街を更新する小さなパブリックスペース
神社やお寺や聖堂が身近にある暮らしを考える」**

2019年6月21日 日建設計東京本社ギャラリースペース
 プレゼンテーション 吉見俊哉「社寺会堂研究会の活動について」
 宇野求 「丘にたつ社と会堂 変遷と更新」
 辻本顕 「駿河台・湯島台・本郷台のパブリックスペース」
 トーク 「本郷台・湯島台・駿河台を歩く」
 宇野求・辻本顕（日建設計）・三浦展・吉見俊哉



シンポジウム 「時層する東京と社寺会堂」

2019年11月6日 湯島聖堂講堂
 報告 吉見俊哉 趣旨説明
 中島隆博「宗教・哲学の視点から」
 宇野求 「建築・都市の視点から」
 齋藤希史 コメンテーター
 パネル 「時層する東京と社寺会堂」
 宇野求・清水祥彦・土居義岳・中島隆博・吉見俊哉

湯島神田上野社寺会堂研究会メンバー（五十音順・敬称略）

稲葉あや香	東京大学大学院
宇野求	東京理科大学教授・建築家
押見匡純	湯島天満宮権宮司
金井康子	東京文化資源会議
国広ジョージ	国士舘大学教授・建築家
高佳音	東京理科大学助教
齋藤希史	東京大学教授
清水祥彦	神田明神宮司
対中秀行	ニコライ堂主任司祭
平正路	湯島聖堂斯文会事務局長
張競	明治大学教授
鳥居繁	神田明神権禰宜
中島隆博	東京大学教授・塾長
モハメッド ナズィール	アッサラムファンデーション代表
さをり ナズィール	アッサラムファンデーション役員
広田直行	日本大学教授
藤井恵介	東京大学名誉教授
宮部亮侑	寛永寺執事
宮本英尚	湯島聖堂斯文会常務理事
柳与志夫	東京文化資源会議事務局長
山崎蘭加	華道家
吉見俊哉	東京大学教授・座長



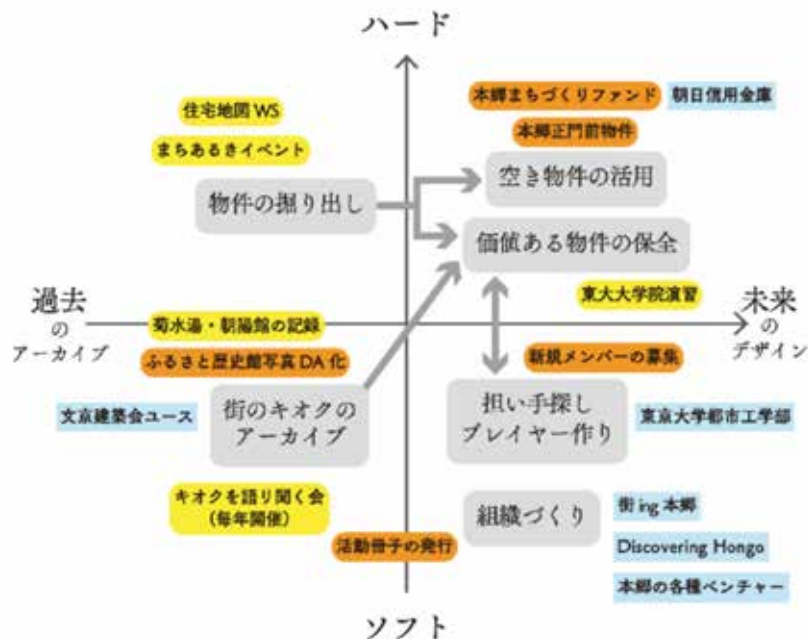
1 ◆ 2019年度の活動

5/28 (火)	(開催) 第30回ミーティング@東大本郷
7/3 (水)	(開催) 住宅地図比較ワークショップ HONGO 1968-2018@ 東大 → 別紙
9/5 (木)	(開催) 第31回ミーティング@東大本郷
9月～12月	(実施) 東大大学院演習で本郷コースが開講 (小泉教授/本郷PJも協力)
12/11 (水)	(開催) 第32回ミーティング@東大本郷
12/26 (木)	(開催) 東大大学院演習最終発表会 (右)
1/24 (金)	(開催) 第33回ミーティング@東大本郷
2/24 (祝)	(開催) やねせんあたり研究所@根津
2/26 (水)	(開催) 第34回ミーティング@東大本郷
3/7 (土)	(中止) 文京映画祭 (キオク出演)
3/20 or 22 (祝)	(延期) 本郷のキオクを語り聞かす会 2020・本郷館編 (キオク主催)
3/31 (火)	(開催) 第35回ミーティング @zoom

- * 2019年度内に開催できなかった「本郷のキオクを語り聞かす会 2020・本郷館編」「まちあるきイベント」は
- * 2020年度夏～秋の開催に向けて計画中
- * 現在、2019年までの活動をまとめた冊子を編集中

2 ◆ 2020年度からの全体計画

「本郷地域における保全・記録の対象とすべきものの発掘・リストアップを確認し、対象を選んで保全・活用のためのまちづくりファンドの適用等を検討し、実際の保全につなげる。例年の活動（本郷のキオクを語り聞かす会）等も継続し、引き続き本郷の文化資源の記録・発信も進める。」



<体制>

- ・座長：栗生はるか（文京建築会ユース）
- ・PM：細見直史（株式会社松下産業）・三文字昌也（東京大学大学院）
- ・会計：NPO法人街ing本郷（2020年度より会計事務の委託予定）

1961-2018 住宅地図比較ワークショップ

（於・東京大学）



本郷のキオクの未来プロジェクトでは、二〇一九年七月三日、東京大学本郷キャンパス工学部十四号館において、「住宅地図比較ワークショップ」HONGO 1961-2018）を開催しました。

活動が四年目を迎えた今、改めて「本郷の守るべき老舗や建築」を網羅的に明らかにすることを目的とし、本郷一丁目〜七丁目の一九六一年と二〇一八年の住宅地図を比較して残っている建物を塗り分ける内容でした。

おかげさまで地元住民の方・研究者など二〇名ほどの方が集まり、共に議論しながら残っている建物に色を塗り、本郷の町の変化が一望できるような地図を完成させることができました。思ったより多くの建物と屋号が残っていることが明らかになりました。

今後、こうした網羅的な作業で炙り出されてきた重要な地域資源を実際に歩いて見に行き、次のアクションにつなげるワークショップを開催予定です。

- ② まちの変化を語る
- ③ 変化を見て分かる
- ④ 気にはな建物や街ブロックアップする

プロジェクトのビジョン

Playfulness for All

プロジェクトの目標

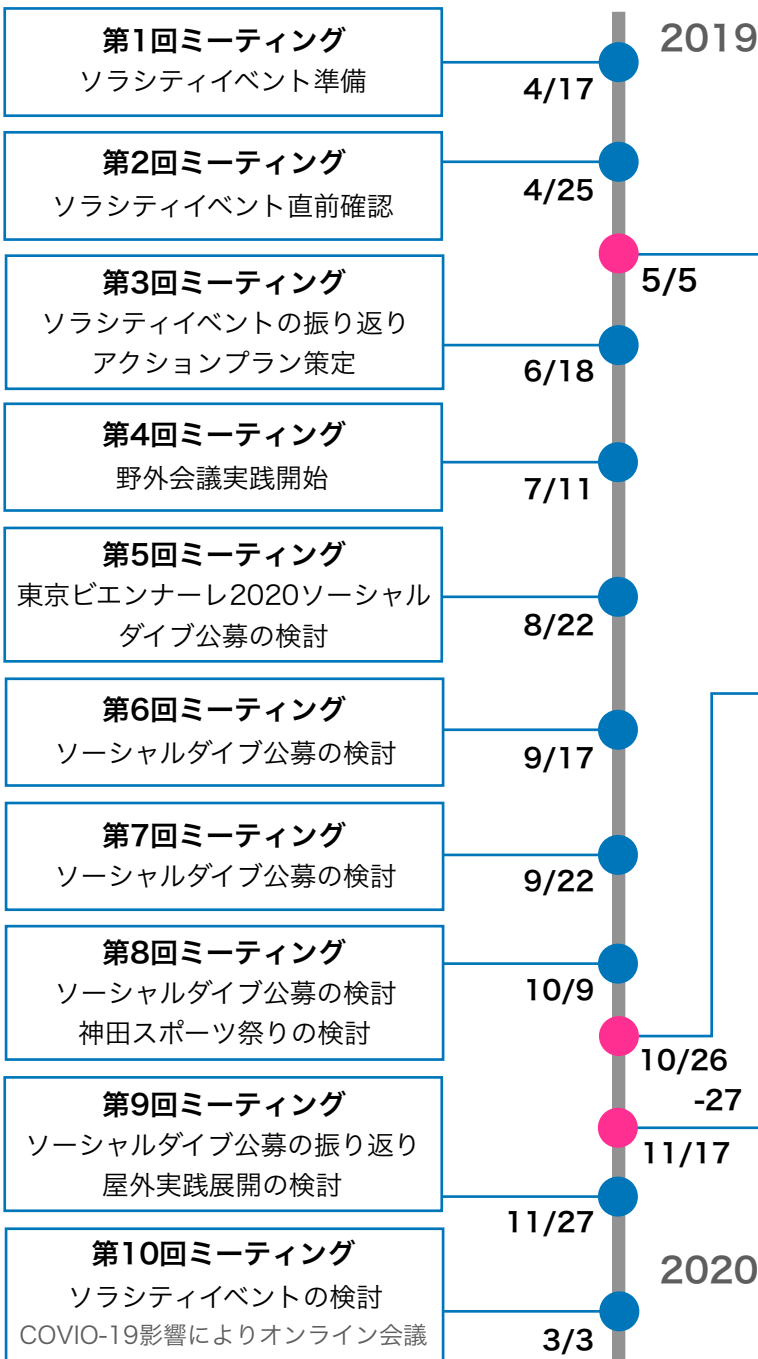
東京カルチャー&スポーツバザールの開催

既成の枠組みを超えて、
新しい”遊び”の場を文化資源区に生み出す。

地域と協働した企画の運営により、
日常的な”遊び”の空間を地域に埋め込む。

プロジェクトチームミーティング

10回開催



スポーツイベント

2回 約200人

ソーシャルダイブ公募

最終選考進出

イベント「ソラシティでスポーツを遊ぼう！」



神田スポーツ祭り「神ガエルスポーツ！」



東京ビエンナーレ2020ソーシャルダイブ公募 一次選考 10/27, 二次選考 11/10, 最終選考 11/17

都市空間の自由 × スポーツ表現
～無心の遊びがつくる緩やかなつながり～

提出した申請書(上)と
野外検討会の様子(右)

プロジェクトのビジョンである「Playfulness for All」に基づき、スポーツイベントを5月に開催。また、神田スポーツ祭りにおいて、年齢、性別、障がいの有無や過去のスポーツ経験等にかかわらず楽しむことができるスポーツを考案するイベントを開催。東京ビエンナーレによる公募プログラム“ソーシャルダイブ”に応募し、最終選考まで進出。

※各イベントの詳細は東京文化資源会議ウェブサイト参照





Ueno Square

上野スクエア構想 ————— 2019年度活動報告

2019年度より、上野スクエアエリア内での**具体的なアクション**として「**アート & スナック運動**」が始まりました。**地元ビルオーナー・東京大学都市デザイン研究室と連携**したプロジェクトで、不忍池のすぐ南側の一帯である**池之端仲町**界隈を対象として進めています。この界隈は、上野スクエア構想としても、不忍池との関わりが深く、上野と湯島を東西に繋ぎ、かつ吹貫横丁を通じて南はアーツ千代田 3331 まで繋がる**扇の要となる地区**です。

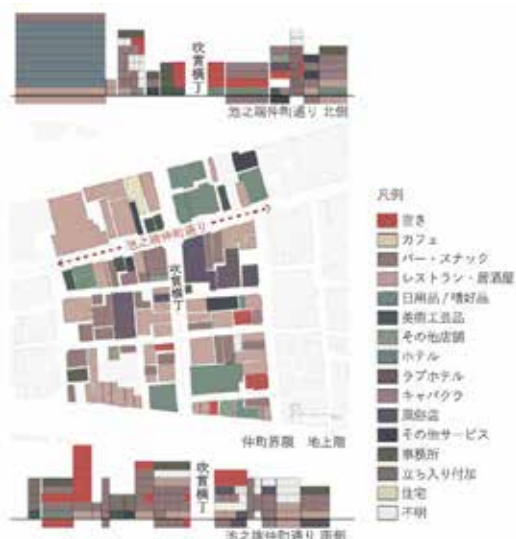
池之端仲町には、上野と本郷をつなぐ「池之端仲町通り」を中心にかつて一流の店舗が建ち並び、「関東大震災までは銀座よりもいい店が沢山あった」とさえ伝わるほど、**歓楽街**でありながら**文化・歴史**に裏打ちされた独特の風情に溢れる街です。しかし近年、路上は**客引き**が多く、その対策を施すとテナントが撤退し**空き区画**が増え、さらに人通りが減るという**悪循環**に陥っていました。

2019年4月から**地元ビルオーナー中心に呼びかけての勉強会「空きスペース活用ミーティング」**を重ね、街にある「**空きスペース**」を使った**まちづくりの方法論**を議論し、その最初の成果として**2019年9月20・21日に「第1回アーツアンドスナック運動-池之端仲町をひらく二日間-」**を開催しました。**街なか**に**点在する空きテナント**を**同時多発的に超短期利用**して、この街が本来持っている多様な文化性=『アーツ』でジャック。“文化的歓楽街”ならでの体験や価値を創出することを試みました。

2019年度活動カレンダー (主要なものを抜粋)

2019.3.28-4.18	東大チームによる仲町空きテナント調査
2019.4.19	第1回ビルオーナーミーティング
2019.5.17	第2回ビルオーナーミーティング 仲町界隈空きスペース見学会
2019.6.13	第3回ビルオーナーミーティング
2019.7.26	第4回ビルオーナーミーティング 仲町界隈空きスペース見学会
2019.8.6	アーツアンドスナック運動実行委員会発足
2019.8.23	第5回ビルオーナーミーティング
2019.8.27	アーツアンドスナック運動ホームページ開設
2019.9.20-21	『 第1回アーツアンドスナック運動 』開催
2019.10.21	第6回ビルオーナーミーティング+打ち上げ
2018/12/20	第7回ビルオーナーミーティング
2019/3/4	小冊子『 アート & スナック運動 #1 』発行

池之端仲町周辺の 空きスペース分布調査



アーツ & スナック 運動 って？

会場アクセス

不忍池の南にひろがる池之端仲町には、かつて江戸一流の商舗が建ち並び、「関東大震災までは銀座よりもいい店が沢山あった」とさえ伝わります。歓楽街でありながら文化・歴史に裏打ちされた独特の風情に溢れるこの街で、普段なかなか入れないリアルな『スナック』を『アーツ』でジャックする特別な二日間。どうぞお楽しみに。
今回は地元ビルオーナーが集まって動き始めた『アーツまちづくり』第一弾。今後も定期的開催予定です！



会場マップ



まずはここから！回遊バスを購入
総合インフォ&青空スナック

まず総合インフォにて回遊バス(1ドリンク付)をご購入頂き、各会場でバスをご提示下さい。
簡単なドリンクのみのご提供です。参加後はぜひ界隈の魅力的な飲食店をお楽しみ下さい。

知る

- 知的アーツ × スナック -

体験する

- 体験型アーツ × スナック -

交流する

- パフォーマンスアーツ × スナック -

映像展示 E 仲町のリアル 直島なぎさ

「多国籍性」という視点から、仲町通りが持つもう一つの文化的側面を探るドキュメンタリー作品。



仲町通り公民館プロジェクト展 D 東京藝大 仲町通り公民館プロジェクト 2019年度出品作家有志

2年間、仲町という街をアートでつなぐことに取り組んできた東京藝大絵画科学生有志。本展には、2019年7月に彼ら自身が企画・開催した「仲町通り公民館プロジェクト」から3組の作家が参加。

映像展示 E 社寺会堂のまち 東京理科大学 宇野求研究室

多様な宗教施設が併立する聖の都市として神田～湯島を描き出す映像展。

上野スクエア D 構想展 東京大+東京文化資源会議

東大生による不忍池南側の都市調査&提案集を、巨大地図&パネル展示で。

ワークショップ A 出でよ！ くるくるのハッピー レインボードラゴン 藝を育むまち同好会

龍のリボンを作り、それを掲げて仲町通りを行進しよう。お子様の参加も歓迎。見学無料。ワークショップ参加+500円。(30分)



帯結び体験 C きもの池之端藤井

+500円で、当日手ぶらOKの半幅帯結び体験。結びのコツお伝えします。



Vtuber B スナック



“Vtuberと話せるスナック”誕生。人気Vtuberがスナックママとして降臨！個人対話は事前申込制で+3,000円。

くみひも体験 C 有職組道明

1652年創業、超老舗の組紐体験。+2,000円で本格ストラップ作りも。(60分)



地元・古老の F まち語り

創業120年の写真館。上野精養軒の婚礼写真に96年携わる。三代目の宮内佑希氏が語る池之端仲町とは。



スナック F 落語

スナックのきらびやかなインテリアに高座を組んで…。落語の街・上野だからこそ実現する不思議な特別公演。



スナックママ F &バーマスター 座談会

夜の街を調査するアーティスト・中本那由子が聞き出す上野・湯島のナイトライフ論。界限スナックママの本音や&老舗バーマスターの日常。

特別ライブ & F ストリートライブ

スナックやストリートを舞台とした生演奏ライブも複数回にわたり開催。華やかな歌声をお楽しみに！



タイムスケジュールや
出演アーティスト情報はこちら！
<http://www.ikenohata-nakacho.com/>



陶芸体験 C ゆしま陶芸倶楽部



陶芸展の他、+3,000円でフリーカップづくりを体験。完成品は焼いて後日お渡し。(40分)

その他企画多数
どうぞご期待！

池之端仲町かい 空きスペース活用 ミーティング 第5回レポート



空きスナックを回遊してもらいながら池之端仲町の文化を発信するイベント
第1回「**アーツ&スナック運動**」を開催しました！

第5回ミーティングで下準備

5回目のミーティングを8/23に旧ホッペルポッペルで開催。「アーツ&スナック運動」の企画詳細の詰めや、参加アーティストによる自己紹介、来場者アンケートのとり方などについて、積極的な意見交換がなされました。



9/20,21当日 250名超の方が参加

当日は7つの空きテナント区画をお借りし、様々な「アーツ」を展開することで参加者に街を回遊して頂きました。藝大生による映像アート・組紐や帯結び、落語など伝統芸能・子供も参加可能なワークショップ・路上&スナックライブ・写真展・スナックママ&バーマスタートーク・Vtuberと話せるスナックなどを用意。二日間でのべ250名を超える方々がご参加下さいました。運営においては地元有志の皆様も多数ご協力下さり、誠にありがとうございました。

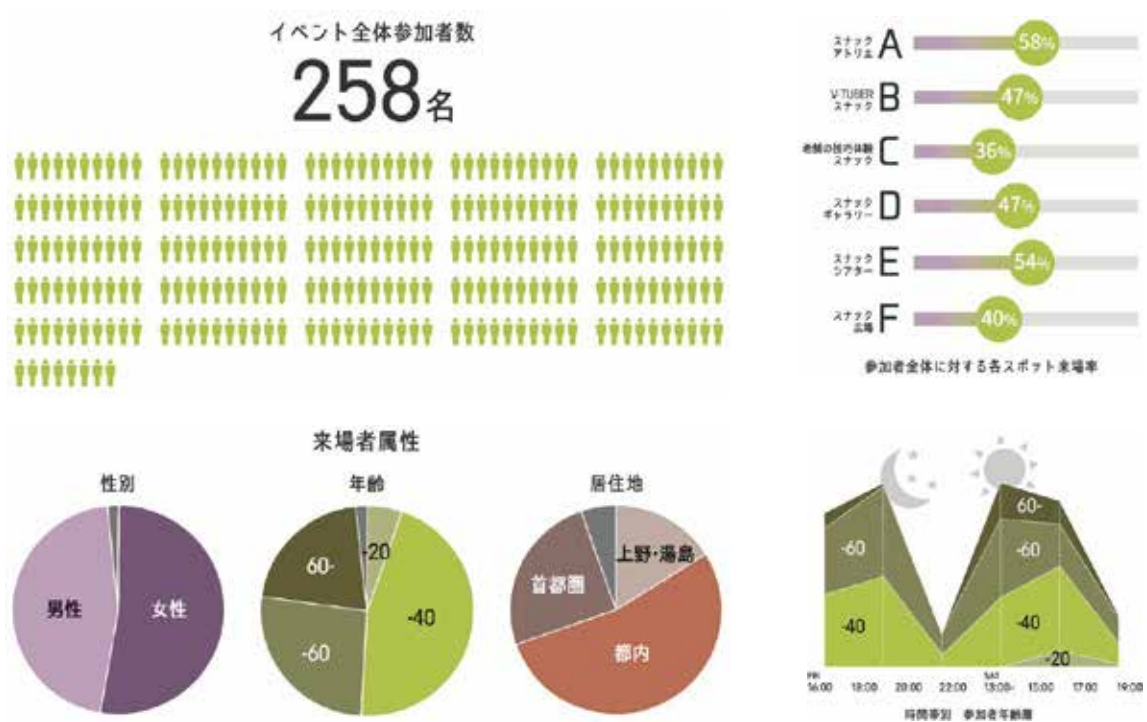
メディアにも掲載！

今回の「アーツ&スナック運動」の取組はメディアからも注目を集め、イベント前には日刊スポーツさんによる取材・掲載が、イベント当日もJCOMや文京経済新聞はじめ複数のメディアから取材がありました。「第2回もぜひ」という声も多く、継続的な取組に向け、引き続き皆様からの厚いご支援を宜しくお願い致します。



日付	メディア名	メディア種別
八月下旬	Tokyo Art Navigation	Web
八月下旬	デザイン情報サイトJDN	Web
九月上旬	まち座	Web
九月上旬	タイムアウト東京	Web・マガジン
九月上旬	pleshe	ものづくり・体験系のキュレーションサイト
九月上旬	PR TIMES	Web (朝日新聞デジタル・時事ドットコムなどに連動)
九月十五日付	日刊スポーツ	新聞 (Yahoo!ニュース、LINE NEWSにも連動)
当日取材	文京経済新聞	Web (LINE NEWSにも連動)
当日取材	JCOM「デイリーニュース」	テレビ
当日取材	湯島かいわい	フリーペーパー
当日取材	スナックナビ	フリーペーパー

参加者データ



アーツアンドスナック運動実行委員会名簿

道明葵一郎 (実行委員長・有職組紐道明)
 藤井成子 (きもの池之端藤井)
 藤井靖子 (きもの池之端藤井)
 藤井裕美子 (きもの池之端藤井)
 佐藤明 (板倉茶屋要)
 宮内雅康 (宮内寫真場)

小野道生 (上野スクエア構想 PM・株式会社都市計画設計研究所)
 福岡俊弘 (合同会社スノウクラッシュ)
 星野善晴 (法政大学)
 中島直人 (上野スクエア構想座長・東京大学)
 永野真義 (上野スクエア構想 PM・東京大学)
 東京大学都市デザイン研究室学生 PJ メンバー 9 名

1) 活動概要

東京都心部の歴史文化的資源を活用したまちづくり、特に歴史的町並みや地域特有の仕事など、土地・建物・暮らしと生業を生かすまちづくりについては、都心部特有の高い地価と開発インパクトを反映して、相続後の家土地の継承、事業継承、地域コミュニティの継続の困難などの課題が大きい。

2017年に発足したリノベーションまちづくり制度研究会は、短期的には1)「地域金融機関と連携したまちづくりファンド活用による具体的プロジェクトの実現」、長期的には2)「歴史的資源に関わる法制度、政策提言とその実現」という2つの目標を掲げ、東京文化資源会議の会員企業、個人会員、都市計画や都市政策等の専門家をメンバーとして活動を行ってきた。2019年度はその成果を元に、国、東京都、区、政党、議会、地域団体等に提言、相談を行い、研究会・幹事会で今後の方向性を考えるとともに、神保町、根津、谷中などの地区でケーススタディを行なった。

- ・ 研究会開催 8月28日
- ・ 幹事会開催 6月12日、12月9日、1月27日
- ・ 作業部会 5月10日、5月27日、7月28日、8月21日、11月6日
- ・ ケーススタディ、関連機関・団体ヒアリング、ワークショップ等 随時参加



(A)

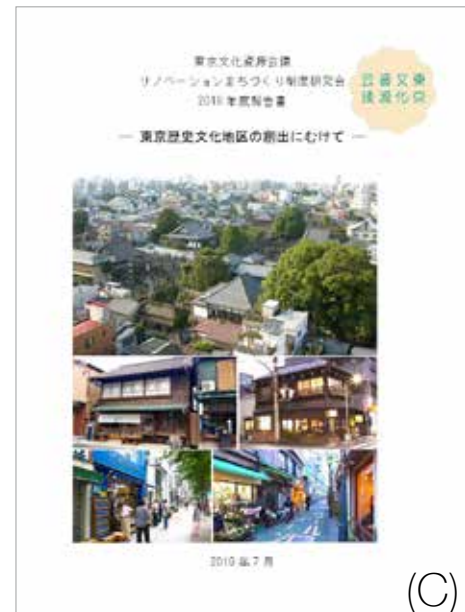


(B)

2) 「谷根千まちづくりファンド」設立後の建物再生にむけた金融情報支援

1)の短期目標については、2018年に民都機構と朝日信用金庫による「谷根千まちづくりファンド」の設立の後、その情報を地域の古民家オーナーや再生活用希望者に伝えた。谷中や根津エリアで、ファンドや融資を活用した大正・昭和の古民家の保全活用が進んでいる。

- ▶(A) 台東区谷中、大正町家を「谷根千まちづくりファンド」を用いて再生した定食屋「傳左衛門めし屋」
- ▶(B) 文京区根津、昭和30年代の商店建築を朝日信用金庫の融資で再生した「根津のパン」店



(C)

3) 「東京歴史文化地区」の創出にむけた活動報告書の発行と相談・要望

2)の長期目標については、これまで取り組んできた活動や要望書を取りまとめた報告書を発行し、2019年8月にリノベ研の研究会にてご協力いただいた会員・企業の方々にその実現手段、推進方法等について相談を行なった。その後、提言をした国や都、区などの各機関、議会にヒアリングや要望を重ねている。提言の骨子は下記となっている。

課題1) 国・都・3区(千代田・文京・台東)向け要望書

- ①「東京歴史文化資源特区」を設定し、特区内の歴史文化資源の保全・活用を東京都心部等の地域外貢献として位置付ける制度の創出
- ②歴史文化資源の保存・再生を法令上、合法化して円滑に扱えること
- ③歴史文化資源についての金融・税制措置への配慮
- ④上記を実現するための調査・事業の推進
(モデル地区：神保町古書店街、谷中・根津・千駄木地区等)

課題2) 上野谷中地区の都市計画道路見直しにかかる緊急要望書

(東京都・台東区宛)

- ▶(C) リノベーションまちづくり制度研究会2018年度報告書「東京歴史文化地区の創出にむけて」
- ▶(D) 東京における歴史文化ゾーン(歴史文化資源特区)のイメージ提案2018(ピンク色の部分) オレンジの部分は現行の「特定都市再生緊急整備地域」(図版出典：同上)



(D)

4) 石井国土交通大臣・同省都市局への「上野・谷根千」地区視察案内と要望紹介

2019年9月5日は、上記課題1)の提言・要望書に基づき、石井啓一国土交通大臣（当時）と同省都市局の方に向けて東京文化資源会議の活動・要望書を紹介するとともに、「上野・谷中・根津・千駄木」地区の視察案内を行なった。

【視察場所】

・ 上野公園～上野桜木あたり～カヤバ珈琲～傳左衛門めしや（まちづくりファンド適用古民家）～茶屋町～朝倉彫塑館通り（補助92号線）～朝倉天心記念公園～HAGISO

【解説内容】

- ・ 東京や都市部の生活・生業・文化資源を引き継ぐために**相続税・固定資産税緩和**や建物保全支援を含む「**歴史文化地区**」創出を要望
- ・ 谷中のまちなみ、古民家再生・老舗継承とまちづくりの紹介
- ・ 谷中地区の都市計画道路の見直しと地区計画の状況、シミュレーション
- ・ 上野公園・谷中地区の防災と歴史文化を生かすまちづくり両立の要望
- ・ 寺院境内に消火栓や超水槽、電線類地中化トランス置き場など提供し、防災拠点として協力する可能性。（谷中・日暮里・上野の山には100を超える寺院がある。）

【視察についての大臣のコメント】

- ・ 谷中は寺町であり、まちも古い建物もよく再生活用されている貴重なまちである。
- ・ 平日でも多くの人が歩いていることに驚いた。
- ・ 国土交通省所管の「谷根千まちづくりファンド」でも古民家再生支援をしている。
- ・ 木密地域でも、歴史まちづくりに関する法制度を重ねることも制度上可能である。

▶(G) 谷中・上野桜木界隈でまちに開いて再生される建物。地域活動や来訪者などと連携して活用される。（図版出典：NPO たいとう歴史都市研究会 2019）

▶(E) 昭和13年築の三軒家を再生した「上野桜木あたり」、▶(F) 昭和30年築のアパートを複合文化施設とした「HAGISO」。まち全体を宿にみだてた旅館hanareのフロントも兼ねる。



谷中・上野桜木界隈で、まちに開いて再生活用される建物



5) 東京都への緊急課題と「東京歴史文化地区」創出の要望

2019年7月30日と2020年2月20日は、東京都都市整備局の局長と防災都市づくり課長との面談を行った。

【東京都都市整備局との協議事項】

- ・ 緊急の議題として、上野・谷中・日暮里・千駄木をつなぐ都市計画道路の廃止に向けて、台東区が計画中の地区計画の内容が同地区の歴史的文化的環境の継承につながるように配慮し、伝建地区、景観地区等の保全型制度を重ねられるよう、都と区が地域と協力してまちづくりを進めるよう要望した。
- ・ 東京都としては、当該都市計画道路の廃止自体は進めるが、重ねて防災や景観まちづくりの支援もしていく。谷中地区全体を一律に考えると合意形成は難しいので、低地の密集市街地は防災・不燃化対策重視とし、台地上の寺社地、尾根筋の古民家のある町並みは、耐震と防火対策を兼ねた保全型まちづくりを目指してはどうか。台東区とも協議すると回答を得た。
- ・ 東京都は2019年度、「防災まちづくり推進計画の基本方針」の策定にあたり、町家や古民家、路地、低層の商店街等を含む木造密集市街地でも、企業等の公共貢献とあわせた「民間の活力を生かした整備促進」、「路地や木造などの地域の特性を生かした安全かつ魅力的な街並みの住宅市街地の再生」を進めることを検討している。2020年度は台東区が行う谷中地区のまちづくり調査をモデル的に支援する予定。
- ・ <https://www.toshiseibi.metro.tokyo.lg.jp/bosai/bosyu.htm>

▶(H) 東京歴史文化資源地区・上野谷中・根津・千駄木・日暮里（案）（出典：リノベーションまちづくり制度研究会 2018年度報告書）、▶(I) 谷中・朝倉彫塑館通りの都市計画道路補助92号廃止後、電線類地中化、歩行者優先道路化イメージ案（資料：谷中を継ぐ会）

- ・ 中長期的課題としては、東京の歴史ある町並みや生業を保全再生支援できるしくみづくりについて相談した。東京都心部の再開発を優先する「都市再生緊急整備地域」



に対比して、都心北東部に「東京歴史文化地区」を設定し、日本の首都東京の中に、日本橋、神田、神保町、湯島、本郷、谷中、根津、千駄木、浅草等、江戸・東京の歴史や文化をつなぐ地区を合わせて、保全型まちづくりを支援する制度創出を要望した。



【東京都教育委員会文化財担当との協議事項】

- 2020年2月20日、谷中地区の住民・寺院代表と共に、東京都教育委員会の文化財担当を訪問。東京都は市区町村の歴史文化まちづくり活動を支援し、国の登録有形文化財申請の支援も行う。東京都にも世界の主要都市が擁する「旧市街」のエリアを設けて保全する方向性について示唆を得る。都内複数自治体にまたがる制度・施策であれば、東京都も一緒に調整できると聞く。

6) 東京の「歴史文化まちづくり」に関する各種団体ヒアリング・ワークショップ等参加

国、都、区への提言と並行して、リノベ研メンバーらが手分けをして、政党、議会、地域団体、専門団体、専門家へのヒアリングを行った。

- 9月8日 NPO 法人日本都市計画協会「全国まちづくり会議」の中で、「歴史文化地区連携」ワークショップに参加、東京各地区のまちづくりに取り組む団体と交流。
- 11月1日 公明党と東京文化資源会議の懇話会に参加、リノベ研の提案概要紹介。
- 1月31日、2月1日 (公社)日本建築士会連合会「第28回全国まちづくり委員長会議—これまでとこれからのまちづくりを探る」において「東京のまちづくりを景観・歴史・防災・福祉の観点から見直す」事例報告と分科会（シンポジウム+ワークショップ）に参加。リノベ研や本郷チームメンバーが谷中や本郷、根津の事例を発表。全国、東京のまちづくりに取り組む団体、建築士等と交流。



7) 地区別ケーススタディ

国、都、区への「歴史文化まちづくり」を支援する施策・制度を提言するために、具体の地区のケーススタディからリアルな課題と解決方法をさぐる。

①千代田区 神保町

- 千代田学・神保町研究会主催で「本の街・神保町のまちづくり協議の進め方」をテーマに「古書店街のまちづくりビジョン・シンポジウム」を企画した。調査研究は大学・学生等が主体に行う。3月3日、明治大学駿河台キャンパスで開催の予定であったが新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止。

▶(J)「古書店街のまちづくりビジョン・シンポジウム」ちらし

- 本に関わる街ということで出版社、書店の代表等を招待していた。
- 東京都の駐車場扶持義務条例の見直しについて。オフィスビルの共同化や建て替えに際して駐車場設置義務の負担が大きく、都も対策の必要性を感じているようだ。
- 東京都の地区外貢献のしくみ推進について、担当部署などがわかればリノベ研から地区外貢献の提案をしたい。地区外貢献の容積移転関連の情報提供の予定。
- 相続税の取り組みは時間がかかるが、地区外貢献の取り組みにも可能性がある。
- 都税である固定資産税については都へ要望を続ける。ただしエリアを定める話になると区が関わってくる。



(図版出典：リノベーションまちづくり制度研究会 2018 年度報告書)

②文京区・根津の街区再生ケーススタディ

- 戦後の木造商店建築や銭湯建築の残る根津不忍通り沿いの一街区について、その街区の歴史的・空間的特徴や生業をいかした、今後の街区再生案を検討。
- 根津地区の歴史文化資料収集、土地建物の履歴・特徴等の調査資料提供。
- 東京大学大学院都市工学科の演習「東京の既成市街地のリデザイン」課題として、

ケーススタディ。学生チームが一街区全体を一気に建て替えるのではなく、**根津の路地や低層階の町との親和性を生かした建物に順次更新していくプロセスを提案。**

- ・ 研究会メンバーが演習の事前講義、地域フィールドワーク、発表・講評会に参加。
- ・ 2月24日、「やねせんあたり研究会」チーム主催で、地区の地権者、住人、区議、根津本郷谷中境界でまちづくりに取り組む団体・個人等を招いた発表会に参加。
- ・ 朝日信金が地域貢献と古民家再生を柱に据え、協力姿勢。根津のブロックでも店舗活用への融資や「谷根千まちづくりファンド」の適用相談が進んでいる。
- ・ 本郷や神田での地域ファンド設立についても、各地区のチームが検討をしていく。

▶(K) やねせんあたり研究会にて、「根津宮永町ブロックの建て替え再生プランを説明する学生ら。

住人、地権者、区議、地域団地メンバーも参加。







▶(L) 根津の路地と低層の木造商店



③台東区・谷中地区：歴史文化資源保全と防災を両立するまちづくり制度の検討と提案支援

- ・ 東京都の都市計画道路の廃止に伴い、地区計画を検討中の谷中地区と隣接する上野公園、日暮里、根津、千駄木地区を一体的な歴史文化地区と考えるまちづくりの提案と相談。
- ・ 谷中地区まちづくり協議会、谷中を継ぐ会、下谷仏教会等のまちづくり検討に参加。
- ・ 下谷仏教会の有志寺院が、保全とともに寺院境内に貯水槽等防災施設設置協力の提案。
- ・ 地域団体と台東区、荒川区、台東区都市計画審議会委員への提案・相談に参加
- ・ 地域団体と台東区議会への谷中まちづくりへの陳情と各会派への説明に参加。
- ・ 文化庁、日本イコモス国内委員会ヒアリング：東京における歴史まちづくり、上野谷中の歴史を生かすまちづくり、**伝建地区、歴まち法適用の可能性と課題**について相談。
- ・ 全国町並み保存連盟「全国町並みゼミ 川越・プレ企画」として、NPO たいとう歴史都市研究会を案内役に、谷中地区の歴史と防災を両立しようとするまちづくり見学会とシンポジウム開催。メンバーが参加。
- ・ 東京都都市整備局と文化財担当に、**都市計画道路の見直しと、上野谷中周辺地区の歴史と防災を両立するまちづくり推進**について要望、質問、相談。
- ・ 地域団体による台東区、台東区議会、台東区都市計画審議会委員等への計画提案に協力。

谷中地区の現状と将来 地区計画のみと、伝建地区、歴史まちづくり法の歴史的風致維持向上計画重点地区の施策をした場合の比較

	谷中の現状の道路と町並み	地区計画の規制だけによる将来像	谷中寺町伝建と歴史まちづくりによる将来像
朝倉彫塑館通りの例	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道幅 5-6M、一方通行 ・ スピードを出す車が多く不安 ・ 電柱が多く交通や消防活動に不安 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道路斜線はあるが4階まで建つ ・ 既存の敷地が売られて合筆されたら ・ 古くからの人が出ていく ・ 電柱が多く、交通や消防活動に不安 <p>このような将来像は望まない</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高さは手前は2~3階まで、4階は奥に ・ 建物の修理・修景・耐震補強支援 ・ 電線類地中化、歩行者優先道路化 ・ 寺院内にトランスと貯水槽で防災対策 ・ 相続税・固定資産税緩和で住み継ぎやすく 
道路B1 谷中町上野桜木の道	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道幅約8M、二車線道路 ・ 谷中町側は高さ10m規制中 ・ 伝統的な町家の家並みが続く ・ 歩行者が多いが歩道スペースが少ない ・ 電柱が多く、交通や消防活動に不安 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高さが20m、6階まで ・ 既存の敷地が売られて合筆されたら ・ 古くからの人が出ていく ・ 電柱が多く、交通や消防活動に不安 <p>このような将来像は望まない</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高さは手前は2~3階まで、4階は奥に ・ 建物の修理・修景・耐震補強支援 ・ 電線類地中化、歩行者優先道路化 ・ 寺院内にトランスと貯水槽で防災対策 ・ 相続税・固定資産税緩和で住み継ぎやすく <p>望ましい将来の谷中の暮らしとまちなみ</p> 

谷中地区の現状と将来（イメージ図）：左）現状、中）地区計画のみの場合の建替可能性、右）電線類地中化と町並み保全、歩行者優先化した場合の町並みシミュレーション
 （資料作成：谷中を継ぐ会 2019）

8) 今後の活動について

- ・ 当研究会では、地価が高く開発インパクトが高い都市部において、歴史文化資源をい生かすまちづくり制度・事業の施策提言を行っていく。
- ・ 国（国土交通省）に行った「歴史文化資源特区」創出の提言については、既存の制度事業との組み合わせも含めて、今後も提案活動を続けていく。
- ・ 今後は東京都への施策提言を中心に行う。
- ・ ①固定資産税の減免条件の検討と②東京歴史文化ファンドの設立などを想定。
- ・ 東京都心部から北東部にかけての歴史文化資源が比較的多く残る地区を対象に、その地区の保全型まちづくりを推進する団体と連携して「東京歴史文化まちづくり連携」のコンソーシアムを結成し、東京の「歴史文化まちづくり」に向けた共通課題の抽出、提言等を行っていく。
- ・ 新型コロナウイルス感染症予防に向けた生活様式、社会経済の変化にあわせて、大規模開発やインバウンド需要に頼り過ぎない地域社会と「歴史文化まちづくり」のあり方を検討していく。
- ・ 2020年7月24日に開催の「ひじりばし博覧会」において、東京の歴史文化地区のまちづくりを行う地域団体を招いて、上記をテーマにしたフォーラムを計画。
- ・ **連携地区（案）：江戸・東京が重なる旧江戸城下町中心から北東部、および江戸四宿**
日本橋、佃島・月島、神田神保町、神楽坂、本郷、根津・千駄木・谷中、向島、雑司が谷、内藤新宿・品川宿・板橋宿・千住宿、等



東京歴史文化地区のイメージ

■ 特定都市再生緊急整備地域

□ 東京歴史文化特区（案）

- ・ 東京の中に、まちの歴史文化を守りやすい地区（エリア）を設定
- ・ 歴史文化地区の住民団体のネットワークづくり
- ・ 文化資源を保全しやすい法制度活用（歴史まちづくり法、景観法、伝建地区、文化財保存活用地域計画）
- ・ 相続税（国税）、固定資産税、都市計画法（都税）の減免
- ・ 文化資源保全の金融支援
- ・ 開発優先地域からの域外貢献として、歴史文化地区ファンドへの協力

東京歴史文化地区のイメージ。

旧江戸城下町と近現代東京の歴史文化資源が重なる地区



「ナショナル・ハウス」（または「ホスピタリティ・ハウス」）とは、各国政府および各国オリンピック委員会（NOC）が五輪大会の開催都市において市内の文化センターやスポーツクラブ、または歴史的建造物等を借り上げて、自国の文化体験の機会を市民や観光客に提供するというものです。2020年のオリンピックに向けて、東京都心部において、多数のナショナル・ハウスが整備されると予想されていました。

東京文化資源会議では、この「ナショナル・ハウス」に関して、一過性のイベント会場として整備するのではなく、大会閉幕後も各国の文化・観光の情報発信拠点等として持続可能な仕組みを各国のNOCや文化機関とご一緒に検討していきたいと考え、2018年に「ナショナル・ハウス・プロジェクト」を発足させました。

五輪大会の開催期間中は各国の文化等を紹介する施設として人気の高い「ナショナル・ハウス」ですが、大会後には基本的に閉鎖されてしまいます。しかし、それはとても「もったいない」ことです。そこで、大会閉幕後も各国の文化・観光の情報発信拠点等として持続可能な仕組みを各国のNOCや文化機関と一緒に実現したいと考えたのです。たとえば、五輪大会の閉幕後には、各国の文化団体が自国文化の情報発信拠点（ギャラリー等）として活用することが期待されるほか、当該施設を居抜きで活用するかたちで、文化施設や飲食施設等に転用することも考えられます。このように五輪後も持続可能で、「レガシー」として継承される「ナショナル・ハウス」を、各国の関係者と一緒に実現していきたいと本プロジェクトでは考えました。

また、東京文化資源区内の施設や建造物等を、いわゆる「ユニーク・ベニュー」（歴史的建造物、文化施設や公的空間等で、会議・レセプションを開催することで特別感や地域特性を演出できる会場のこと）として活用することも想定されました。そこで、本プロジェクトでは、「ナショナル・ハウス」の提案・誘致に加えて、文化資源区内における「ユニーク・ベニュー」や新しいかたちの都市文化観光を推進することも検討課題として包含して活動することといたしました。

そして、東京文化資源会議のホームページ等において、文化資源・知識資源を活用してレガシーとクリエイティビティ両面を提示できるナショナル・ハウスにとって極めて重要な場所として文化資源区内各エリアの立地特性等をアピールしました。

こうした活動の成果として、実際に複数の国・機関から打診がありました。ただし、それらの引き合いは、いずれも大規模な面積を必要とするものでした。文化資源区内において想定していた物件（リノベーション、土地等）とは、規模・価格の両面から残念ながらマッチングが成立しませんでした。

上記の通り、一定の反応を得たものの、本プロジェクトは2019年度末を迎えたため、活動を停止することとなりました。

なお、その後、ナショナル・ハウスの立地が決まったというニュースは、一部の国を除いてほとんどなされていません。新聞では、「ネックとなるのは都心部の高い賃料だ。十分な広さの用地探しに頭を悩ませている国もあるという。仮に見つけても手狭で使い勝手が悪いなど「難航している国も少なくないようだ」と大会関係者は明かす」（2019/7/5、日本経済新聞）、「都は大会期間中に日比谷公園（千代田区）に2、3カ国が開館できるスペースを用意。各国との誘致交渉を進めている。一方で、過密都市・東京特有の事情から用地を探せず、大使館内に施設を設置するフィンランド型が増える可能性もある」（2019/02/2、産経新聞）と報道されており、未だ多くの国が場所等を決定していない（またはやむなく大使館内に設置すると判断した）ものと考えられます。

企画・運営メンバー <2020年4月時点>

中島伸 (東京都市大学) [座長]
安ウンビョル (東京大学大学院)
木越純 (バンクオブアメリカ)
北村秀哉 (東京電力)
島裕 (日本経済研究所)

田中元子 (株グランドレベル)
谷口晋平 (博報堂)
玉置泰紀 (KADOKAWA)
橋本健史 (403architecture)
藤山龍太郎 (国立国会図書館)

柳与志夫 (東京文化資源会議事務局長)
吉見俊哉 (東京大学)
三浦誌乃 (横浜国立大学)
鷲尾和彦 (博報堂)
渡部裕樹 (日建設計総合研究所)

委員会の立ち上げ

過去2年間をかけて検討を進めてきたTTT構想の実現化フェーズの第一歩として、構想案の具体化および関係各所への働きかけを目的とする「東京トラムタウン構想委員会」を立ち上げた。

2019年12月より定例会合を開催し、候補エリア(上野-浅草間)を選定し、計画案の策定を進めた。

【委員会設置の目的】

都市イノベーションの手段として、スローモビリティ(=トラム)の可能性を検証し、さらなる成熟社会に向かう日本/東京における、次の豊かな都市生活像・都市文化のモデルを提言する。下記2点を主たる活動内容とした。

① 構想の策定 (案の具体化)

東京文化資源区構想の検証項目の1つである、「スローな交通手段とシステム」の導入検討プロジェクト(=TTT構想)にて企画・構想されたコンセプトをベースとして、具体的な構想および計画案の作成を行う。

② 関係各所への働きかけ

策定した構想案をもとに関係各所への働きかけを進め、公式な検討の開始につなげる。構想の実現に向けた第1ステップとなる、上野浅草区間での社会実証実験への道筋をつくることを具体的な目標とする。

【TTT構想委員】敬称略

中村文彦 (横浜国立大学教授) : 委員長
木越純 (バンク・オブ・アメリカ・エヌ・エイ東京支店副会長)
田中元子 (グランドレベル代表)
中島伸 (東京都市大学講師) : TTT 構想 PT 座長
廣瀬通孝 (東京大学教授)
保坂三蔵 (元参議院議員)
矢部直治 (シンスケ四代目)
吉見俊哉 (東京大学教授)

▼東京トラムタウン構想路線案



構想案の概要

TTT構想の第一弾区間候補である上野-浅草間を対象とした「隅田川と上野の森をつなぐ緑の浅草通り再生計画」

【計画コンセプト】

- ① 浅草通りの街路公園化計画によるエコロジカルな軸線整備
- ② 公共街路空間の歩行者への開放
- ③ 上野と浅草をつなぎ、特色ある境界を顕在化させる・地域の自律性の向上
- ④ 旧来の下町コミュニティと異なる生活者層や旅行者との交流
- ⑤ スローモビリティ導入による沿道景観、都市風景の価値の向上
- ⑥ 文化資源としての寺町の再生

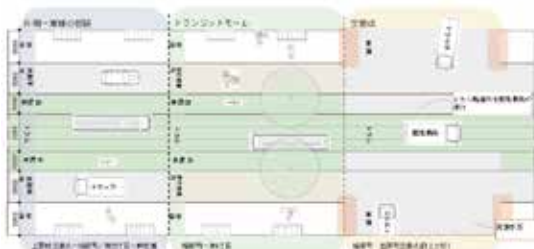
▼浅草通り計画の全体イメージ



▼浅草通り周辺のリサーチ



▼街路 (基本パターン) 平面図



▼エリアプランの例



●2020年度の活動について

策定された構想案をもって関係各所へのアプローチを開始する。まずは2021年に社会実証実験の実現を目指す。

■プロジェクト概要

秋葉原は「オタクの街」として国内外に知られています。しかし、既に定着したこのイメージに引きずられることが、街として次の変化を迎えることを難しくしています。他方で、秋葉原がオタクの街として知られるまでに蓄えてきた重層的な文化資源は、今日も変わらず秋葉原の魅力として機能しています。こうした状況の中で、秋葉原の文化資源を活用し、街のさらなる進化を目指すために「広域秋葉原作戦会議」プロジェクトは発足しました。

本プロジェクトでは、秋葉原の「辻」的性質に注目します。秋葉原の歴史に目を向けると、秋葉原は単体で街として成立していたのではなく、周囲の街との深い関係性の中にあっただことがわかりました。周囲の街の文化が集まってくる交差点、すなわち「辻」として機能していた街が秋葉原だったのです。

そこで、本プロジェクトでは、秋葉原を単体の街として捉えるのではなく、秋葉原を中心に周囲の街も含めた1つの広域エリア「Greater Akiba (グレーターアキバ) / 広域秋葉原」として捉え、エリア全体の歴史や現状を踏まえながら街の進化と将来像を考えることにしました。これまで約2年間に渡って活動を行っており、秋葉原にある多種多様な文化資源の把握と、それらを踏まえながら街の未来像を検討しています。



座長：庄司昌彦（武蔵大学教授）

プロジェクトマネージャー：菊地映輝（国際大学 GLOCOM 研究員・講師）

井上奈智（国立国会図書館）

■2019年度の主たる活動

2019年度の広域秋葉原作戦会議プロジェクトは、月に1回の定例会議に加え、下記の活動を行いました。

2019年度の主な活動（定例会議は除く）

2019年5月	<ul style="list-style-type: none"> 東京文化資源主催イベント「ソラシティでスポーツを遊ぶ in ソラシティカンファレンスセンター」内でミニラウンドテーブル『広域秋葉原とeスポーツの持つ可能性』を開催。
2019年6月	<ul style="list-style-type: none"> 広域秋葉原アイディアソン Vol.3「千代田区都市計画マスタープランをハックする」開催。
2019年8月	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクトで同人誌『広域秋葉原作戦 2019 β』を作成。 コミックマーケット 96 にサークルとして出展。
2019年11月	<ul style="list-style-type: none"> 第3回アニメ聖地巡礼“本”即売会にサークルとして出展。 独自マスタープラン「千代田区都市計画マスタープランをハックする～広域秋葉原の2040年へ向けての構想～」を公表。 千代田区都市計画マスタープラン改定「中間のまとめ」（案）に対して意見提出および公聴会にて公述。
2019年12月	<ul style="list-style-type: none"> 「アイディアソン:スローモビリティで楽しいアキバ!」をトーキョートラムタウン構想プロジェクトと共催。
2020年1月	<ul style="list-style-type: none"> 東京大学設置授業「文化継承情報論」への協力。 産業能率大学設置授業「ソーシャルメディアコミュニケーション」への協力。

以下、2019年度の活動をジャンル別に整理してご紹介します。

定例会議の開催

秋葉原に関係するステークホルダーや有識者を招いた定例会議を月に1回のペースで実施しています。定例会議では、広域秋葉原エリアの情報を交換するとともに、多角的な視点から議論を行っています。

またプロジェクトの活動方針についても定例会議で決定しています。

ラウンドテーブルの開催

2019年度はミニラウンドテーブル『広域秋葉原とeスポーツの持つ可能性』を開催しました。このラウンドテーブルでは、広域秋葉原エリア内の、ゲーム文化の聖地（秋葉原）、スポーツの街（神田小川町）などの点をつなぎ合わせ、全体で面としてeスポーツの聖地を作り上げていくにはどうすればよいか。またエリア内の資源や文化をどう組み合わせれば、広域秋葉原発の新たなeスポーツを作り出せるかなどを議論しました。

アイデアソンの実施

より多様なステークホルダーを巻き込み、新たなアイデアを創出するためにアイデアソンを開催しています。2019年度は「千代田区都市計画マスタープランをハックする」と「アイデアソン：スローモビリティで楽しいアキバ！」の2つを開催しました。

アイデアソンは、様々な分野の人々が集まり、グループディスカッション等を通じて新たなアイデアを生み出すワークショップです。各アイデアソンで生まれたアイデアは、広く社会に公開すると共に、プロジェクトの活動に取り入れることで実現化を目指しています。

同人誌作成と即売会への参加



2019年8月に開催されたコミックマーケット96に合わせ、広域秋葉原作戦会議プロジェクトで同人誌を作成しました。この同人誌は、プロジェクトがそれまで行ってきた活動記録であると同時に、プロジェクト関係者が考える広域秋葉原エリアのビジョンを提示するものです。作成した同人誌はコミックマーケット96で頒布したほか、神田明神で開催された同人イベントや、プロジェクト関係者のWebサイトなどでも販売しました。

また、同人誌に収録した「千代田区都市計画マスタープランをハックする？広域秋葉原の2040年へ向けての構想？」は、現在千代田区が進める都市計画マスタープラン改定作業への、広域秋葉原作戦会議プロジェクトからの独自提案という位置づけであり、2019年11月に開催された千代田区都市計画マスタープラン改定「中間のまとめ」（案）に係る意見提出と公聴会で、実際に千代田区に対して提案を行なっています。

大学の授業への協力

2019年度は東京大学と産業能率大学の授業への協力も行いました。学生たちに広域秋葉原エリアが抱える課題を提示し、それに対する解決策を考えてもらいました。

学生たちにとっては、実際に都市で起きている問題を考える主体的な学びの機会に、プロジェクトにとっては、外から見た広域秋葉原のイメージを知る機会になりました。



○プロジェクト概要

上野公園及び周辺地域が持つ豊富な文化資源の活用、特に、夜間における活用の方策をエリア全体として考え関係各方面へ提案を行うため、2018年10月に上野ナイトパーク構想会議を発足させた。2019年2月に発表した同構想会議による報告書をもとに、提案内容を具体化させていくための中間組織の設立およびモデル事業の企画策定など様々な事業を通じ、夜間を中心とした上野公園および周辺施設との連携を強化させ、上野という地域一帯の文化資源の全面的な活用策の提案を継続的に行っていくことを目的としている。

○「上野ナイトパーク構想」報告書および上野ナイトパークシンポジウムの開催

2019年2月に発表した「上野ナイトパーク構想」報告書をもとに、同報告書の検討結果を報告すると共に、今後の上野公園及びその周辺地域の在り方について、民産官学を横断して論じる場として2019年4月3日に公開シンポジウム「上野ナイトパークが日本を変える」を開催した。

<東京文化資源会議 第10回公開シンポジウム「上野ナイトパークが日本を変える」>

日時：2019年4月3日 15:30-18:00

場所：東京国立博物館 平成館大講堂（東京都台東区上野公園13-9）

プログラム内容

1. 主催者挨拶：伊藤 滋（東京文化資源会議会長）
2. 趣旨説明：青柳正規（上野ナイトパーク構想会議座長、山梨県立美術館館長・前文化庁長官）
3. 基調講演：浦井正明（寛永寺長舘）
4. 上野ナイトパーク構想の概要報告：柳与志夫（東京文化資源会議事務局長）
5. パネルディスカッション

パネリスト：秋元雄史（東京藝術大学大学美術館館長・教授）、上山信一（慶應義塾大学教授）、杉浦久弘（文化庁審議官）、二木忠男（上野観光連盟会長）吉見俊哉（東京大学教授 / 司会）



○上野ナイトパーク構想検討委員会の発足

「上野ナイトパーク構想」の現実化に向け、構想実現化に賛同した企業・団体・金融機関を中心としたメンバーとともに、2019年4月より「上野ナイトパーク構想検討委員会」を発足させ、定例会議を重ねてきた。

同委員会は、現状における上野公園の活用状況の共有、各文化施設における夜間利用の状況、観光客などインバウンドにおける状況や今後の見通し、上野公園周辺の商業施設や周辺地域における状況の共有や今後の連携可能性、およびそれらが地域にもたらす可能性について検討を重ねてきた。

委員会における議論を踏まえ、夜間の公園活用および周辺地域との一体的な企画提案を行う体制づくりのため、中間組織である「上野ナイトパークコンソーシアム」の設立と活動の方向性について議論を重ねてきた。

○日本博採択事業の企画策定及び文化施設との連携

文化庁が推進する「日本博」を契機とする文化資源コンテンツ創成事業の採択を受け、東部公園緑地事務所との協議及び公園内各文化施設との連携協議を踏まえ、噴水前広場及び東京国立博物館、国立科学博物館、東京都美術館が協力先となり、各施設の前庭や施設の一部を活用し、各施設の夜間開館と連動する形で、午前10時から21時までを実施時間とする一日限りのイベント「上野ナイトパーク 2020 spring」を企画策定した。モデル事業における実施項目として、以下の7つを盛り込んだ。

- 1) 噴水前広場でのアーティストらによるパフォーマンスおよびライブ演奏
- 2) コンテンツカーによるライブや映像配信などのインタラクティブなコンテンツの提供
- 3) 各文化施設の前庭を活用した生演奏やアーティストパフォーマンス

- 4) キッチンカーなどの飲食提供（噴水前広場、各文化施設の前庭等）
- 5) スローモビリティの展示・試乗
- 6) グランピングなどのレジャー体験
- 7) インバウンド観光客向けの美術館ナイトツアーの実施

本企画は2020年3月6日開催で準備を進めてきたが、新型コロナウイルスの影響により運営モデルの企画策定にとどまったものの、各文化施設との協力や東京都含めた関係各所との連携強化を図ることができた。引き続き、上野ナイトパークコンソーシアムを主体として各施設との連携強化や協議の場を設けていく予定である。



○上野ナイトパークコンソーシアムの設置

モデル事業と合わせ、今後の運営一体化を企画できる中間組織「上野ナイトパークコンソーシアム」を上記検討委員会を発展させる形で2020年2月に設立した。「上野ナイトパークコンソーシアム」は、夜間における上野公園および在園文化施設入場者の増加、周辺地域との交流人口の増加促進、地域の文化資源の活用可能性を認知させていくための各文化施設との連携による上野公園の夜間活用の促進、文化施設等ユニークベニューの発掘・提案等による文化的経済的価値の創出及び事業創造を活動目的としている。今後、コンソーシアムとしての組織体制の強化や、活動を展開していくための具体的な議論を引き続き行っていく予定である。

上野ナイトパークコンソーシアムの構成団体・会社は以下のとおり（2020年3月31日現在）。

東京文化資源会議、合同会社 quod、株式会社 JTB、株式会社大丸松坂屋百貨店、株式会社竹中工務店、株式会社丹青社、株式会社電通、株式会社トーキョーベータ、野村不動産株式会社、朝日信用金庫



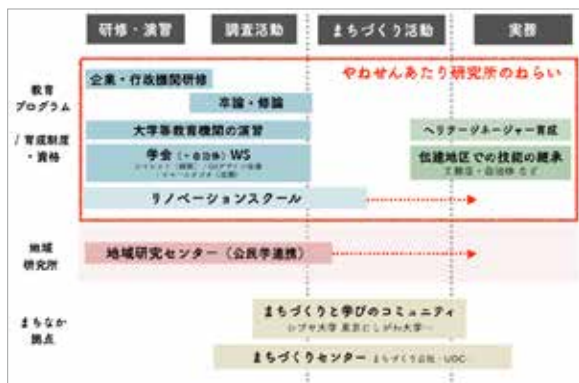
○2020年度以降の事業計画について

設立した上野ナイトパークコンソーシアムの運営基盤を確立させ、今後の事業計画を策定しながら持続可能な運営組織体制を構築していく。各施設が参加・連携した文化資源を軸として上野恩賜公園および周辺地域をつなぎ、当該地域の魅力をより効果的に体験できる夜間イベントの企画、関連した企画プロデュース等を実施予定である。

交流・連携の場としての「やねせんあたり研究所」

やねせんあたり研究所は、プロジェクトスクール谷中（以下PS谷中）の後続の企画として2019年度に発足したものである。PS谷中では、文化資源会議が活動目的のひとつとする、文化資源を実務に活かし地域に貢献できる専門家を地域で育成することをめざした。3年間のPS谷中の試行から、このような活動を継続し、地域に還元するためには、地域の中に地域で研究・活動する人が情報を共有するためのプラットフォームの不在が課題として顕在化したことから、「地域立」の独立した研究機関の設立を目標とした本企画を立ち上げることとなった。

やねせんあたりとは、谷根千（谷中、上野桜木、根津、千駄木、池之端）と下谷、根岸、弥生、下谷、日暮里などの周辺地域をさす。この企画は、文化資源を支えるための実務・日常生活と研究・教育活動が相互に交わり、新しい価値を生み出す場を目指すものである。特に、大学や研究室、企業を超え、研究や活動のアプローチや成果を共有すること、建築・都市計画、民俗、芸術文化、医療福祉等、多分野の交流と連携の場とすることが目標である。



まちなかでの研究、人材育成活動と本プロジェクトの対象



発表会ポスター

第1回研究・活動発表会＋交流会の実施

本年度はやねせんあたりで展開する文化資源会議の関係者（本郷、根津、谷中）を中心に、本企画のフレームを検討した上で、研究発表会を実施した。発表会は、やねせんあたり研究所の構想を示すとともに、卒業論文や修士論文、あるいは実践プロジェクトでやねせんあたりに関わる人と地域の生活者との交流の場とすることをねらいとしたものである。その意味で、一定期間に目標を定めて実施するプロジェクトというよりも、まさに活動のためのプラットフォームづくりが主眼となっている。

発表者は、東大大学院演習「東京の既存市街地のデザイン」において「根津・宮の湯ブロックプロジェクト」に参加した大学院生である。発表後は、模型を囲んで、土地所有者や区議会議員といった地域のキーパーソンとまちの課題について、また、大学の演習提案と実践との連携の可能性についての意見交換を行なった。さらに、「やねせんあたりの研究・活動アーカイブ」として、やねせんあたりを活動拠点とする3名（谷中 椎原晶子氏・根津 栗生はるか氏・本郷 三文字昌也氏）より、卒論・修論や各種プロジェクトの受け入れと、研究・学術調査から実践プロジェクトへの展開の状況についての報告を受け、2019年度の活動状況としての記録を作成した。

活動発表会の様子については、文京経済新聞の取材を受け、雑誌「地域人」の4月号にも掲載された。

< イベント概要 >

- ・日時：2020年2月24日（月）13:00-17:00
- ・会場：宮本記念財団ミニミュージアム準備室
- ・プログラム

 - 1 研究所趣旨説明 座長：片桐由希子
 - 2 根津・宮の湯ブロックプロジェクト発表会
（背景説明 椎原晶子 / 計画提案 東大演習チーム）
 - 3 やねせんあたりの研究・活動アーカイブ
（谷中 椎原晶子・根津 栗生はるか・本郷 三文字昌也・その他参加者）
 - 4 意見交換：地域研究所としてのやねせんあたりの活動の今後を考える

活動のまとめと今後の展開

今後は文化資源会議とも連携しながら、やねせんあたりでの各拠点での活動を踏まえて交流を独自に展開していくことを予定している。一つは、大学の卒論や修論のスケジュールを踏まえた情報共有・発表会の機会（夏頃に調査項目・対象・法に関する情報交換会、年度末に地区ごとの成果発表会など）、もうひとつは、地域で実践研究する人たちの研究・活動発表の機会である。「地域立研究所」を成り立たせるためには、地域のまちづくり実践団体、様々な分野（建築・不動産、医療福祉、子育て、出版編集、芸術文化等）で地域に関わる企業、いくつかの大学研究室の参画と連携が必要であり、両者を組み合わせながら、本企画の目標として提示した地域立の研究所の実現を目指し活動を行うことを予定している。

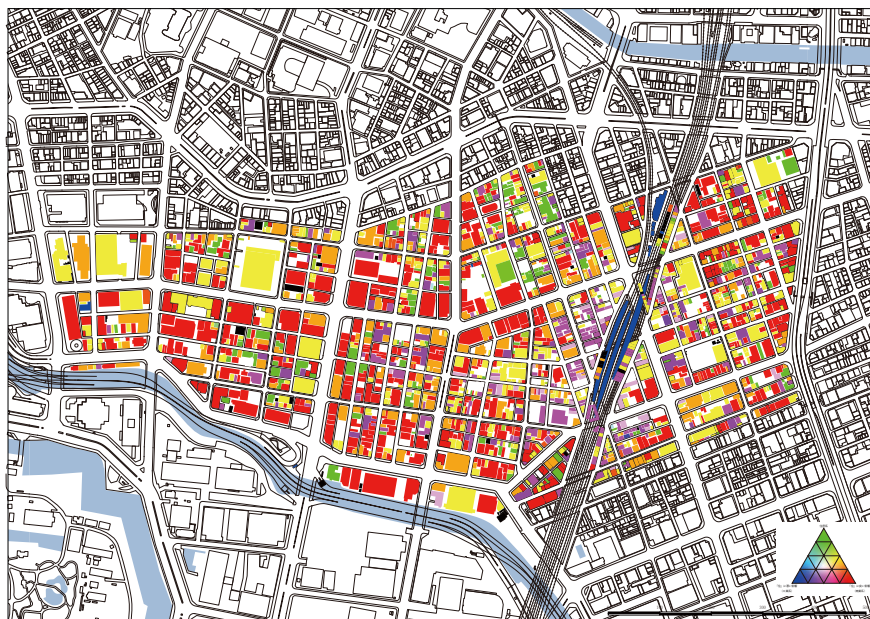


概要

神田まちづくり懇談会は、昨今の都心回帰の流れで神田地域の大小様々な開発機運が高まる中で、神田のまちづくりに様々な立場で関わる人々が集まり、懇談を通じた意見交換により神田という地域のブランド力や魅力を上げていきたいという趣旨で東京文化資源会議の下に立ち上げた懇談会です。小林正美明治大学教授が座長を務め、2016年度より懇談会を開催してきました。

2018年度には、それまでの産官学民（ディベロッパーや近隣大学、各種地元関係者など）一体となった議論を通して、新しい神田ブランドを、①統一的公共性のあるルールの適用、②起業副業を支える職住近接のまちづくり、③大人が夜安心して遊べるまち、の3本柱で定義し、これらを懇談会の活動方針としました。そしてアイデアの提案で終わるのではなくアクションを生むために、神田らしい都市開発やまちづくりを進めていく際の指標の作成を目指しています。

神田は、共通する一つのイメージの神田というだけではなく、魅力的で個性的な町々から成る集合体、かいわいがあります。そこで、それらの小さな個性が集合するかいわいの特性に応じた指標づくりを通じて、推奨される地域のビジョンを共有し、さらに若い人たちが参加しやすい、新しい産業が展開することを期待したいと考えています。



2019年度活動

2019年度は上述の神田かいわい指標の作成に向けて、指標の候補となる要素の検討と、かいわい指標を地元の方と考えるワークショップの企画を行ってきました。具体的には月1回程度のペースでコアメンバーが集まり幹事会を開き、その成果を元に2019年9月と2020年2月の懇談会において議論をしました。9月の懇談会では、東京大学、明治大学での各演習の成果を学生に発表していただき、街の多様性を評価するデータや実際に実現したい街のイメージが示されました。2月の懇談会では、不動産、都市開発事業者に神田や隣接地域におけるまちづくりの現状や課題を発表していただきました。活動の担い手がないことやイベントをするスペースが不足していることなど共通の課題が挙がり、今後指標作成の際に重要なポイントとなりそうです。



2020年度に向けて

2020年度初めに地元の方との指標づくりワークショップを予定していましたが、コロナウィルス蔓延の影響で検討作業の進め方を再考しています。6月には不動産、都市開発事業者と共にポストコロナ時代のまちづくりについて考える懇談会を開く予定で、社会状況の大きな変化を踏まえながら引き続きかいわい指標の検討を進めていきます。

東京文化資源会議主催のもと『ソラシティでスポーツを遊ぼう in ソラシティカンファレンスセンター』を2019年5月5日(日、祝日)に開催いたしました。

同イベントは共催である sola city Conference Center 協力のもと、施設内を活用したイベントやラウンドテーブル、講演会などを開催し、多様な文化資源を学んだり体験したりする一日となりました。当日は、GW 期間中のなか、快晴のイベント日和で、親子連れで参加される方も多く見られました。



■ イベント概要

【主催】東京文化資源会議（共催：ソラシティカンファレンスセンター）

【協賛】公益社団法人日本数学検定協会、株式会社インフィールド

【後援】公益財団法人日本サッカー協会

日時：2019年5月5日(日) 13:00～19:00（入場料無料、申し込み不要）

会場：御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンター

<開催内容>

- ・2階 sola city Hall 13:00～16:00『風船を使ったスポーツ、凹凸ポッチャ、オフィス de 鬼ごっこ等』
- ・1階 芝生広場（軍艦山）13:00～16:00『ソラシティでスポーツの謎解き遊び』
- ・2階 Terrace Room 16:00～19:00 ミニラウンドテーブル『広域秋葉原とeスポーツの持つ可能性』

【プログラム】

主催者挨拶・趣旨説明：庄司昌彦氏（武蔵大学社会学部教授 / 当 Project 座長）

講演「地域とeスポーツの歴史的視座」加藤裕康氏（関東学院大学 / 社会学者）

講演「DHU e-sports 部の取組み」深澤明日美氏（デジタルハリウッド大学学生支援グループ）

講演「秋葉原はeスポーツを育てられるのか？」菊地映輝氏（東京工業大学 / 当 Project PM）

ラウンドテーブル「広域秋葉原エリアがeスポーツの聖地になるためには」

古澤明仁氏（日本eスポーツ連合 (JeSU) 国際委員長 / (株) RIZeST 代表取締役社長）

吉岡有一郎氏（株式会社クロスブリッジ / Akiba.TV 株式会社 代表取締役）

玉置泰紀氏（KADOKAWA 2021 年室エグゼクティブプロデューサー・担当部長）

加藤氏、深澤氏、菊地氏

庄司氏（モデレーター）

・1階 RoomA 16:00～18:00 講演会・対談『神田発、日本近代スポーツの誕生』 講演者：木下秀明氏（元日本大学教授）

【プログラム】

1. 講演「神田と日本近代スポーツ」木下秀明（元日本大学教授）
2. 対談 木下秀明氏 × 森田暁氏（神田地域研究家）
3. 聴講者との懇談

■ 今後の活動について

東京文化資源会議主催、sola city Conference Center 共催のもと、2020年度から「ひじりばし博覧会」と名称し、定期的に東京文化資源会議の各PT全体の活動発表会も兼ねたシンポジウムやセミナーなどを開催しながら、地域の文化資源を学び体験するイベントとして展開していく予定です。

活動中のプロジェクトチーム等 一覧

2020年5月17日現在

*PM：プロジェクトマネージャーの略称

<プロジェクトチーム>

1. 3区文化資源地図ファブ（真鍋陸太郎座長、鈴木親彦 PM）
2. 湯島神田上野社寺会堂研究会（吉見俊哉座長、金井康子 PM）
3. 本郷のキオクの未来（栗生はるか座長、三文字昌也・細見直史 PM）
4. スポーツ文化資源（鈴木直文座長、逢坂裕紀子 PM）
5. 上野スクエア構想（中島直人座長、小野道生・永野真義 PM）
6. リノベーションまちづくり制度研究会（田村誠邦座長、小泉秀樹副座長、小野道生 PM）
7. トーキョートラムタウン構想（中島伸座長、谷口晋平 PM）
8. 広域秋葉原作戦会議（庄司昌彦座長、菊地映輝・井上奈智 PM）

<委員会等>

- 全国文化資源連携ビジョン策定委員会（伊藤滋委員長）
- 上野ナイトパーク構想会議（青柳正規座長）・上野ナイトパークコンソーシアム
- 神田まちづくり懇談会（小林正美座長）
- 広報委員会（柳与志夫委員長、野口雅乃副委員長）
- 出版委員会（沢部均委員長）
- 東京トラムタウン構想委員会（中村文彦委員長）
- やねせんあたり研究所（片桐由希子主宰）

<個別の取組>

- 旧岩崎邸整備
- MANGA ナショナルセンター設置

<3区との協議会>

- 東京文化資源区文化プログラム推進協議会
- 三区文化資源地図協議会

<関連協力団体>

- 非営利芸術活動団体コマンド N

2019年度 東京文化資源会議 収支報告

東京文化資源会議一般会計収支報告（2020年3月31日現在）

収入の部

費目	内訳	予算	収入	差額
前年度繰越金		2,160,969	2,160,969	0
会費	賛助会員会費	11,400,000	11,450,000	50,000
	本会員会費	210,000	207,000	▲3,000
利子		0	50	50
総計		13,770,969	13,818,019	47,050

支出の部

費目	内訳	予算	支出	差額
事務局運営費	事務所賃料（光熱水道費を含む）	510,000	542,826	▲32,826
	備品等購入費	50,000	182,642	▲132,642
	スタッフ手当（事務局長、次長、スタッフ、臨時アルバイト）	3,800,000	3,532,064	267,936
	事務作業委託費	100,000	154,049	▲54,049
	交通費、電話料金、消耗品費等運営経費	500,000	376,841	123,159
	総会開催経費	200,000	320,232	▲120,232
	事務所移転経費	500,000	173,442	326,558
	小計	5,660,000	5,282,096	377,904
全国文化資源連携ビジョン 策定委員会運営費	運営委託費（委員等謝金、交通費、事務費等）	1,000,000	600,432	399,568
イベント開催経費	講師謝金、運営経費、会場費等	1,800,000	1,598,920	201,080
プロジェクトチーム等運営費	プロジェクトチーム運営経費	2,300,000	2,179,929	120,071
連携事業支援金		200,000	200,864	▲864
広報普及費	既存出版物増刷費	200,000	25,800	174,200
	パンフレット・チラシ等編集・作成費	400,000	264,120	135,880
	ニューズレター制作費	650,000	635,131	14,869
	ホームページ改修・運用費	200,000	5,458	194,542
	SNS関連広報費（事務委託）	550,000	540,432	9,568
	広報委員会運営経費	100,000	0	100,000
	活動報告会実施経費	500,000	0	500,000
小計	2,600,000	1,470,941	1,129,059	
その他諸経費（会計監査謝金等）		100,000	63,994	36,006
予備費		110,969	0	110,969
総計		13,770,969	11,397,176	2,373,793

収支差額

2019年度繰越金額			2,420,843	
------------	--	--	------------------	--

東京文化資源会議特別会計1 収支報告（2020年3月31日時点）

収入の部

費目	内訳	収入
前年度繰越金		16,121
協賛金	5社×100万円, 1社×200万円	7,000,000
利子		10
総計		7,016,131

支出の部

費目	内訳	支出
移管	特別会計2に移管	6,000,000
振込手数料	移管にともなう振込手数料	880
総計		6,000,880

収支差額

2019年度繰越金額		1,015,251
------------	--	------------------

東京文化資源会議特別会計2 収支報告（2020年3月31日時点）

収入の部

費目	内訳	収入
口座作成預金	東京文化資源会議一般会計より	10,000
移管	東京文化資源会議一般会計より	510,000
移管	東京文化資源会議特別会計1より	6,000,000
融資	手貸実行（融資）	14,527,100
協賛金	1社×165万円	1,650,000
利息		2
総計		22,697,102

支出の部

費目	内訳	支出
出資金	朝日信用金庫出資金	10,000
運営経費	日本博運営経費	12,413,746
手数料	振込手数料総額	4,015
総計		12,427,761

収支差額

2019年度繰越金額		10,269,341
------------	--	-------------------

2019年度 東京文化資源会議 会計監査報告


東京文化資源会議 2019年度会計監査報告

2019年度（2019年4月～2020年3月）の東京文化資源会議の事業執行及び財産の状況を帳簿その他の証拠資料の提示を受け監査した結果、いずれも適正に処理され妥当であることを認めます。

2020年5月28日

東京文化資源会議

監事

北岡 夕子 

東京文化資源会議 2020 年度事業計画（案）

1. 東京文化資源会議 2030 ビジョンの策定・発表（全国文化資源連携ビジョン策定委員会）

2. 上野関連プロジェクトへの集中的取組

以下の構想プロジェクトを連携させながら、将来的には統合して運用・発展させるための「上野グランド計画（仮称）」の策定に取り掛かり、その実現に向けて関係者との協議を行う。また、それらの運営の核となる企画会社設立を検討する。

①上野ナイトパーク構想（構想会議座長：青柳正規多摩美術大学理事長）

構想を推進するため、本会議及び賛同する賛助会員企業から成る「上野ナイトパークコンソーシアム」を設置する。昨年度（2020年3月）延期した上野公園及び関連施設との連携イベントの2021年2月開催に向けた準備を進める。

②上野スクエア構想（PT 座長：中島直人東京大学准教授）

アーツ&スナック運動を核に地元関係者との連携を進めるとともに、上野スクエア全体をつなぐ仕組みづくりを考える。

③トーキョートラムタウン構想（PT 座長：中島伸東京都市大学准教授）

「東京トラムタウン構想委員会」（委員長：中村文彦横浜国立大学教授）での議論をまとめ7月を目途に公表する。同時に2021年の上野・浅草間の社会実験実施をめざして、関係者との協議を進める。

3. 各プロジェクト（P）等の運営と関連イベント（オンラインを含む）の開催

①3区文化資源地図ファブP（座長：真鍋陸太郎東京大学助教）

帝都物語地図カタログを出版する。構築した地図アーカイブの活用事例を作っていく。

②地域文化資源デジタルアーカイブP（座長：柳与志夫東京大学特任教授）

これまでの実践で得られた経験・知識を活かすため、各地域で地域資料のデジタル化・キュレーションする際のガイドとなるDAラボ実施マニュアルを制作・出版する。また、今夏開催予定の「ひじりばし博覧会2020」におけるイベントとして、社寺会堂研究会と連携して、宗教における集いをテーマにしたDAラボを実施し、それをひと区切りとして活動を休止する。

③上野湯島神田社寺会堂研究会（座長：吉見俊哉東京大学教授）

社寺会堂塾の1年間の成果を出版物にまとめる。ハード面整備のための中長期ビジョンを策定する。参加6施設を核とする共同イベント「崖東夜話」を2020年10月に実施する。それに合わせて、ソフト面・ハード面の両面で散策路の開発を行う。

④本郷のキオクの未来P（座長：栗生はるか文京建築会ユース代表）

本郷地域における保全・記録の対象とすべきものの発掘・リストアップを改めて確認する。対象を選んで、保全・活用のためのまちづくりファンドの適用を検討する。

⑤スポーツ文化資源P（座長：鈴木直文一橋大学教授）

これまで行ってきた各イベントをレビューするとともに、スポーツの文化資源化を図るため、「スポーツを遊べる」場をこの地域内で増やしていく。

⑥リノベーションまちづくり制度研究会（座長：田村誠邦明治大学特任教授）

「歴史文化資源特区制度（仮称）」創設を継続的に関係者に働きかけるとともに、街区単位のリノベーションまちづくりの事例開発を具体化する。

⑦**広域秋葉原作戦会議 P**（座長：庄司昌彦武蔵大学教授）

歴史性と現況データを踏まえた「広域秋葉原」の将来象を提示するとともに、その具体化を図るため各種関係者との協議を進める。

⑧**神田まちづくり懇談会**（座長：小林正美明治大学教授）

新しい神田ブランドづくりに役立つ「神田かいわい指標」を作成し、関係者へ提示・協議したうえで、実際の適用に向けて千代田区を含めた関係者への働きかけを行う。

⑨**文化資源プロデュース塾**（塾頭：中村雄祐東京大学教授）

東京文化資源区内の文化資源の活用を担う人材育成を目的として「文化資源プロデュース塾」を設置する。10月27日開催の崖東夜話イベントと連動して第1期生を募集する。

4. 広報普及活動

- (1) 『T-Cha』の発行（年3回）
- (2) ソラシティにおける広報イベント「ひじりばし博覧会 2020」の開催（7月）
- (3) 社寺会堂共同イベント「崖東夜話」の実施（10月）

5. 東京文化資源区文化プログラム推進協議会の運営

6. その他当会議の目標を達成するために必要な事業

東京文化資源会議 2020 年度収支計画（案）

○収入

前年度繰越金	242 万 843 円	
本会員会費	$3,000 \text{ 円} \times 70 \text{ (団体・個人)} = 21 \text{ 万円}$	
賛助会員会費	$(50 \text{ 万円} \times 12 \text{ 団体}) + (30 \text{ 万円} \times 12 \text{ 団体}) + 25 \text{ 万円 (2019 年度未収分)} = 985 \text{ 万円}$	
		計、1,248 万 843 円

○支出

事務局運営費 516 万円	
事務所賃料（光熱水道費を含む）（3 万円 × 12 か月）+ 5 万円 = 41 万円	
備品等購入費 5 万円	
スタッフ手当（事務局長、次長、スタッフ、臨時アルバイト）370 万円	
事務作業委託費 30 万円	
交通費、電話料金、消耗品費等運営経費 40 万円	
総会開催経費 30 万円	
全国文化資源連携ビジョン策定委員会運営費 50 万円	
運営委託費（委員謝金、交通費、事務費、報告書作成費等）全 1 回開催	
イベント開催費（シンポジウム等 5 回程度を想定） 150 万円	
講師謝金、運営経費、会場費等 150 万円	
プロジェクトチーム等運営費 240 万円	
プロジェクトチーム等運営費 $20 \text{ 万円} \times 12 \text{ グループ} = 240 \text{ 万円}$	
広報普及費 240 万円	
既存出版物増刷費 20 万円	
パンフレット・チラシ等編集・作成費 50 万円	
ニューズレター制作費（3 号分） 55 万円	
ホームページ改修・運用費 10 万円	
SNS 関連広報費（事務委託） 55 万円	
活動報告会（ひじりばし博覧会）実施経費 50 万円	
企画会社設立経費 30 万円	
その他諸経費（会計監査謝金等） 10 万円	
予備費 12 万 843 円	

計、1,248 万 843 円

東京オリンピック文化プログラム推進に関わる 4 者協議会規約

2016 年 5 月 9 日確定

(名称)

第 1 条 本協議会は、東京文化資源区文化プログラム推進協議会と称する。

(目的)

第 2 条 本協議会は、2020 年東京オリンピック・パラリンピック文化プログラムの実施に合わせて、東京都千代田区、文京区及び台東区内に存在する豊富で多様な文化資源を、当該各区のみならず、当該各区の住民及び国内外からの来訪者に対して連携して活用することにより、各区域内における文化振興、地域活性化、教育普及、観光促進等を図るため、その具体的な施策について協議及び推進することを目的とする。

(協議会の構成)

第 3 条 本協議会は、前条の目的に賛同する次の各号の掲げる 4 者（以下単に「4 者」という。）をもって構成する。

- (1) 千代田区
- (2) 文京区
- (3) 台東区
- (4) 東京文化資源会議

(運営方針)

第 4 条 本協議会の運営方針は、4 者の協議によって決定する。

(事務所)

第 5 条 本協議会は、主たる事務所を東京都千代田区神田錦町二丁目 1 番地に置く。

(会議)

第 6 条 本協議会の会議は、4 者の合意のもと、必要と認めた場合に開催する。

2 会議の議事は、4 者の協議をもって決する。

(事業等に係る経費)

第 7 条 4 者の協議に基づく文化プログラム個別プロジェクトの企画及び実施に係る経費の支出については、4 者で別途協議する。

(規約の改定)

第 8 条 本協議規約の改定は、4 者の合意をもって行う。

(事務局)

第 9 条 本協議会の事務局は東京文化資源会議内に置く。

(その他)

第 10 条 本協議会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規約は、平成 28 年 6 月 1 日より施行する。

全国文化資源連携ビジョン策定委員会 委員名簿

2020年2月現在 / 50音順

- ・ 青山 侑 明治大学名誉教授
- ・ 伊藤 滋 東京大学名誉教授 <委員長>
- ・ 久保田 尚 埼玉大学理工学研究科教授
- ・ 隈 研吾 東京大学工学部教授
- ・ 小泉 秀樹 東京大学先端科学技術研究センター教授
- ・ 小林 正美 明治大学大学院理工学研究科教授・副学長
- ・ 後藤 治 工学院大学理事長
- ・ 佐藤 友美子 追手門学院大学地域創造学部教授
- ・ 進士 五十八 福井県立大学学長
- ・ 陣内 秀信 法政大学名誉教授
- ・ 高野 明彦 国立情報学研究所教授
- ・ 中村 政人 東京藝術大学美術学部教授・アーツ千代田 3331 ディレクター
- ・ 西村 幸夫 神戸芸術工科大学大学院教授
- ・ 廣瀬 通孝 東京大学先端科学技術研究センター教授
- ・ 村上 裕道 文化庁地域文化創生本部研究官
- ・ 森 まゆみ 作家、谷根千工房代表
- ・ 森川 嘉一郎 明治大学国際日本学部准教授
- ・ 門内 輝行 大阪芸術大学建築学科長・教授、京都大学名誉教授
- ・ 八木 壯一 (株)八木書店会長
- ・ 吉見 俊哉 東京大学大学院情報学環教授

計、20名

東京文化資源会議 役員名簿

2020年5月18日現在

会長	伊藤滋（東京大学名誉教授）	
幹事長	吉見俊哉（東京大学教授）	
顧問	青木保（前国立新美術館館長） 青柳正規（多摩美術大学理事長） 相賀昌宏（小学館社長） 小倉純二（日本サッカー協会最高顧問） 金澤正剛（国際基督教大学名誉教授）	高階秀爾（大原美術館館長） 竹内誠（江戸東京博物館名誉館長） 長尾真（京都大学名誉教授） 御厨貴（東京大学名誉教授）
幹事	太下義之（国立美術館・同志社大学） 小野道生（㈱都市計画設計研究所） 宇野求（東京理科大学） 片桐由希子（金沢工業大学） 栗原祐司（京都国立博物館） 栗生はるか（文京建築会ユース） 小泉秀樹（東京大学） 小林正美（明治大学）：副幹事長 沢辺均（ポット出版） 椎原晶子（NPO たいとう歴史都市研究会） 島裕（公益財団法人中曽根康弘世界平和研究所） 庄司昌彦（武蔵大学） 鈴木直文（一橋大学） 数藤雅彦（弁護士） 高野明彦（国立情報学研究所） 玉置康紀（㈱KADOKAWA） 田村誠邦（㈱アークブレイン・明治大学） 中島伸（東京都市大学） 中島直人（東京大学） 中村政人（東京藝術大学） 中村雄祐（東京大学） 野口雅乃（㈱イード） 濱口博行（東アジアサッカー連盟・広島経済大学） 福島幸宏（東京大学） 三船康道（NPO 歴史的建造物とまちづくりの会） 山本玲子（特定非営利活動法人全国町並み保存連盟） 吉本光宏（㈱ニッセイ基礎研究所）	
監事	北岡タマ子（お茶の水女子大学）	
事務局長	柳与志夫（東京大学）	

東京文化資源会議 賛助会員（一般・特別）リスト

2020年3月31日現在

< 一般賛助会員 >

1. AGC (株)
2. 朝日信用金庫
3. NTT 都市開発(株)
4. 講談社
5. (株) JTB
6. 集英社
7. (株)ゼンリン
8. 第一勧業信用組合
9. (株)丹青社
10. 凸版印刷(株)
11. (株)日音
12. (株)日建設計
13. (株)乃村工藝社
14. (株)日立製作所
15. (株)松下産業
16. (株)ムラヤマ
17. (株)山下 PMC
18. (株)ヤマハミュージックジャパン
19. YKK AP (株)

< 特別賛助会員 >

1. 住友商事(株)
2. 大成建設(株)
3. (株)大丸松坂屋百貨店
4. (株)竹中工務店
5. (株)電通
6. (株)東京ドーム
7. 日鉄興和不動産(株)
8. 野村不動産(株)
9. (株)博報堂
10. 三井不動産(株)
11. 三菱地所(株)
12. 安田不動産(株)

< 名誉賛助会員 >

(株)池之端藤井

東京文化資源会議 規約改正案

(名称)

第1条 本会を、東京文化資源会議と称する。

第2条 本会事務所は、東京都台東区上野2の11の1 藤井ビル3階に置く。

(目的)

第3条 本会は、主に上野、本郷、谷根千、神保町、秋葉原、神田、根岸等の特色ある文化を保有する地域を中核とした上野寛永寺から旧江戸城に至る東京都心北部（東京文化資源区）一帯に幕末以降集積された近代日本文化の所産、即ち文化資源を地域特性に応じて整備（renovate）し、我が国文化芸術学術の拠点として、2040年迄に世界的な創造都市東京の中核とする構想（東京文化資源区構想）の推進を目的とする。

2 本会の活動期間は令和2年4月から令和5年3月までとし、延長する場合は改めて活動期間を定める。

(会員)

第4条 本会は、前条の目的に賛同する法人、団体又は個人をもって構成する。

2 本会の会員は、前条の目的推進のため自ら主体的に活動する本会員、本会の活動を賛助する賛助会員及び特別会員とする。

(役員)

第5条 本会は、本会員の互選により選任される次の役員を置く。

顧問若干名、会長、幹事長、幹事若干名、事務局長（会計担当）、監事

2 本会の常務は、前項の役員らをもって構成される役員会により行われる。

(会費)

第6条 本会の会費は、次のとおりとし、各年度分を当該年度5月末迄に支払うこととする。

本会員 年額 3,000 円

賛助会員

特別賛助会員 年額 500,000 円

一般賛助会員 年額 300,000 円

特別会員 無償

(会議)

第7条 本会は、必要に応じ役員会にてこれを必要と認めた場合開催する。

2 役員会は、会長又は幹事長がこれを必要と認めた場合開催する。

(その他)

第8条 本会の運営に関し必要な事項は別に定める。

附則 この規約は、令和2年4月1日より施行する。

東京文化資源会議 2020 年度総会資料

発行日 2020年7月24日

発行者 東京文化資源会議（編集：廣瀬淳哉）

〒110-0005 台東区上野2-11-1 藤井ビル3階

TEL: 03-5244-5450 WEB: <https://tcha.jp/>



